

(様式第 10)

愛医病管第 181 号
平成 28 年 9 月 30 日

厚生労働大臣

殿

学校法人愛知医科大学
理事長 三宅 養三 (印)

愛知医科大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第 1 項及び医療法施行規則（昭和 23 年厚生省令第 50 号）第 9 条の 2 の 2 の第 1 項の規定に基づき、平成 27 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒480-1195 愛知県長久手市岩作雁又1番地1
氏 名	学校法人愛知医科大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

愛知医科大学病院

3 所在の場所

〒480-1195 愛知県長久手市岩作雁又1番地1	電話(0561)62-3311
------------------------------	-----------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

<input checked="" type="checkbox"/> 1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、十六診療科名すべてを標榜
<input type="checkbox"/> 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無
内科と組み合わせた診療科名等 1消化管内科 2肝胆膵内科 3循環器内科 4呼吸器内科 5アレルギー科 6内分泌内科 7代謝内科 8神経内科 9腎臓内科 10リウマチ科 11血液内科 12糖尿病内科 13 14	
診療実績	

(注) 1 「内科」欄及び「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「リウマチ科」及び「アレルギー科」についても、「内科と組み合わせた診療科等」欄に記入すること。

(注) 3 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(2) 外科

外科	<input checked="" type="checkbox"/>	有	・	無	
外科と組み合わせた診療科名 1消化器外科 2心臓外科 3血管外科 4呼吸器外科 5乳腺外科 6内分泌外科 7腎移植外科 8 9 10 11 12 13 14					
診療実績					

(注) 1 「外科」欄及び「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

<input type="checkbox"/> 1精神科	<input type="checkbox"/> 2小児科	<input type="checkbox"/> 3整形外科	<input type="checkbox"/> 4脳神経外科	<input type="checkbox"/> 5皮膚科	<input type="checkbox"/> 6泌尿器科	<input type="checkbox"/> 7産婦人科
8産科	9婦人科	<input type="checkbox"/> 10眼科	<input type="checkbox"/> 11耳鼻咽喉科	<input type="checkbox"/> 12放射線科	13放射線診断科	
14放射線治療科	<input type="checkbox"/> 15麻酔科	<input type="checkbox"/> 16救急科				

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	<input checked="" type="checkbox"/>	有	・	無	
歯科と組み合わせた診療科名 1歯科口腔外科 2 3 4 5 6 7					
歯科の診療体制					

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1形成外科	2リハビリテーション科	3病理診断科	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
47床	床	床	床	853床	900床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

(平成 28 年 9 月 1 日現在)

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	452人	17.9人	469.9人	看 護 補 助 者	6人	診療エックス線技師	0人
歯 科 医 師	11人	1.6人	12.6人	理 学 療 法 士	32人	臨 床 検 査 技 師	64人
薬 剤 師	72人	0.6人	72.6人	作 業 療 法 士	12人	衛 生 検 査 技 師	0人
保 健 師	0人	0人	0人	視 能 訓 練 士	6人	そ の 他	0人
助 産 師	25人	0人	25人	義 肢 装 具 士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看 護 師	964人	13.5人	977.5人	臨 床 工 学 士	19人	医 療 社 会 事 業 従 事 者	8人
准 看 護 師	2人	0人	2人	栄 養 士	0人	そ の 他 の 技 術 員	11人
歯 科 衛 生 士	4人	0人	4人	歯 科 技 工 士	2人	事 務 職 員	84人
管 理 栄 養 士	12人	0人	12人	診 療 放 射 線 技 師	58人	そ の 他 の 職 員	48人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

(平成 28 年 9 月 1 日現在)

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	32人	眼 科 専 門 医	10人
外 科 専 門 医	40人	耳 鼻 咽 喉 科 専 門 医	12人
精 神 科 専 門 医	8人	放 射 線 科 専 門 医	13人
小 児 科 専 門 医	21人	脳 神 経 外 科 専 門 医	10人
皮 膚 科 専 門 医	9人	整 形 外 科 専 門 医	22人
泌 尿 器 科 専 門 医	11人	麻 酔 科 専 門 医	14人
産 婦 人 科 専 門 医	17人	救 急 科 専 門 医	13人
		合 計	232人

- (注) 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 () 任命年月日 平成 年 月 日

--

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	730.4人	11.0人	741.4人
1日当たり平均外来患者数	2441.4人	99.5人	2540.9人
1日当たり平均調剤数	4542.8剤		
必要医師数	213.4人		
必要歯科医師数	6.4人		
必要薬剤師数	57人		
必要(准)看護師数	460人		

- (注)1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
集中治療室	574.82m ²	鉄筋コンクリート	病床数	28床	心電計	有・無
			人工呼吸装置	有・無	心細動除去装置	有・無
			その他の救急蘇生装置	有・無	ペースメーカー	有・無
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 243.39m ² [移動式の場合] 台数 台		病床数	18床		
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床積 27.46m ² [共用室の場合] 共用する室名					
化学検査室	566.47m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 生化学自動分析装置 検体検査自動化システム			
細菌検査室	145.69m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 自動血液培養器 自動同定感受性測定機			
病理検査室	306.63m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) ベンタベンチマークULTRA,ライカASP6025 クリオスットライカCM1860UV			
病理解剖室	42.73m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) バイオハザード対策解剖台,ホルマリン希釈装置 臓器写真撮影装置			
研究室	6,904m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 研究用機器			
講義室	3,342m ²	鉄筋コンクリート	室数20室	収容定員2,088人		
図書室	1,976m ²	鉄筋コンクリート	室数2室	蔵書数92,000冊程度		

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
- 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

算定期間		平成27年4月1日～平成28年3月31日	
紹介率	74.0%	逆紹介率	49.5%
算出根拠	A：紹介患者の数	18791人	
	B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数	14295人	
	C：救急用自動車によって搬入された患者の数	2602人	
	D：初診の患者の数	28892人	

(注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由（注）

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
				有・無	
				有・無	
				有・無	
				有・無	
				有・無	
				有・無	

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有・無
委員の選定理由の公表の有無	有・無
公表の方法	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	3	56	ベーチェット病	48
2	筋萎縮性側索硬化症	20	57	特発性拡張型心筋症	12
3	脊髄性筋萎縮症	1	58	肥大型心筋症	0
4	原発性側索硬化症	0	59	拘束型心筋症	0
5	進行性核上性麻痺	9	60	再生不良性貧血	23
6	パーキンソン病	69	61	自己免疫性溶血性貧血	0
7	大脳皮質基底核変性症	4	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	1
8	ハンチントン病	2	63	特発性血小板減少性紫斑病	81
9	神経有棘赤血球症	0	64	血栓性血小板減少性紫斑病	0
10	シャルコー・マリー・トウス病	0	65	原発性免疫不全症候群	5
11	重症筋無力症	55	66	IgA腎症	3
12	先天性筋無力症候群	0	67	多発性嚢胞腎	9
13	多発性硬化症／視神経脊髄炎	39	68	黄色靭帯骨化症	4
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎／多巣性運動ニューロパチー	7	69	後縦靭帯骨化症	60
15	封入体筋炎	0	70	広範脊柱管狭窄症	2
16	クロー・深瀬症候群	0	71	特発性大腿骨頭壊死症	26
17	多系統萎縮症	22	72	下垂体性ADH分泌異常症	6
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	37	73	下垂体性TSH分泌亢進症	0
19	ライソゾーム病	2	74	下垂体性PRL分泌亢進症	12
20	副腎白質ジストロフィー	0	75	クッシング病	2
21	ミトコンドリア病	6	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	3
22	もやもや病	17	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	16
23	プリオン病	0	78	下垂体前葉機能低下症	66
24	亜急性硬化性全脳炎	0	79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	1
25	進行性多巣性白質脳症	0	80	甲状腺ホルモン不応症	0
26	HTLV-1関連脊髄症	0	81	先天性副腎皮質酵素欠損症	0
27	特発性基底核石灰化症	0	82	先天性副腎低形成症	0
28	全身性アミロイドーシス	34	83	アジソン病	0
29	ウルリッヒ病	0	84	サルコイドーシス	115
30	遠位型ミオパチー	0	85	特発性間質性肺炎	13
31	ベスレムミオパチー	0	86	肺動脈性肺高血圧症	6
32	自己食空胞性ミオパチー	0	87	肺静脈閉塞症／肺毛細血管腫症	0
33	シュワルツ・ヤンペル症候群	0	88	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	0
34	神経線維腫症	13	89	リンパ管筋腫症	2
35	天疱瘡	20	90	網膜色素変性症	14
36	表皮水疱症	0	91	バッド・キアリ症候群	2
37	膿疱性乾癬(汎発型)	6	92	特発性門脈圧亢進症	1
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	0	93	原発性胆汁性肝硬変	15
39	中毒性表皮壊死症	0	94	原発性硬化性胆管炎	0
40	高安動脈炎	21	95	自己免疫性肝炎	8
41	巨細胞性動脈炎	1	96	クローン病	60
42	結節性多発動脈炎	9	97	潰瘍性大腸炎	170
43	顕微鏡的多発血管炎	29	98	好酸球性消化管疾患	0
44	多発血管炎性肉芽腫症	8	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	0
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	4	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	0
46	悪性関節リウマチ	2	101	腸管神経節細胞減少症	0
47	バージャー病	26	102	ルビンシュタイン・テイビ症候群	0
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	0	103	CFC症候群	0
49	全身性エリテマトーデス	181	104	コステロ症候群	0
50	皮膚筋炎／多発性筋炎	72	105	チャージ症候群	0
51	全身性強皮症	88	106	クリオピリン関連周期熱症候群	0
52	混合性結合組織病	19	107	全身型若年性特発性関節炎	1
53	シェーグレン症候群	3	108	TNF受容体関連周期性症候群	0
54	成人スチル病	10	109	非典型溶血性尿毒症症候群	0
55	再発性多発軟骨炎	3	110	ブラウ症候群	0

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
111	先天性ミオパチー	0	161	家族性良性慢性天疱瘡	0
112	マリネスコ・シェーグレン症候群	0	162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	1
113	筋ジストロフィー	0	163	特発性後天性全身性無汗症	4
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	0	164	眼皮膚白皮症	0
115	遺伝性周期性四肢麻痺	0	165	肥厚性皮膚骨膜炎	0
116	アトピー性脊髄炎	0	166	弾性線維性仮性黄色腫	0
117	脊髄空洞症	2	167	マルファン症候群	0
118	脊髄髄膜瘤	0	168	エーラス・ダンロス症候群	0
119	アイザックス症候群	1	169	メンケス病	0
120	遺伝性ジストニア	0	170	オクシピタル・ホーン症候群	0
121	神経フェリチン症	0	171	ウィルソン病	0
122	脳表ヘモジデリン沈着症	0	172	低ホスファターゼ症	0
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性 白質脳症	0	173	VATER症候群	0
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優 性脳動脈症	0	174	那須・ハコラ病	0
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性び まん性白質脳症	0	175	ウィーバー症候群	0
126	ペリー症候群	0	176	コフィン・ローリー症候群	0
127	前頭側頭葉変性症	0	177	有馬症候群	0
128	ピッカーstaff脳幹脳炎	0	178	モワット・ウィルソン症候群	0
129	痙攣重積型(二相性)急性脳症	0	179	ウィリアムズ症候群	0
130	先天性無痛無汗症	0	180	ATR-X症候群	0
131	アレキサンダー病	0	181	クルーゾン症候群	0
132	先天性核上性球麻痺	0	182	アペール症候群	0
133	メビウス症候群	0	183	ファイファー症候群	0
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	0	184	アントレー・ピクスラー症候群	0
135	アイカルディ症候群	0	185	コフィン・シリズ症候群	0
136	片側巨脳症	0	186	ロスムンド・トムソン症候群	0
137	限局性皮質異形成	0	187	歌舞伎症候群	0
138	神経細胞移動異常症	0	188	多脾症候群	0
139	先天性大脳白質形成不全症	0	189	無脾症候群	0
140	ドラベ症候群	0	190	鰓耳腎症候群	0
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	0	191	ウェルナー症候群	0
142	ミオクロニー欠神てんかん	0	192	コケイン症候群	0
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	0	193	プラダー・ウィリ症候群	1
144	レノックス・ガストー症候群	0	194	ソトス症候群	0
145	ウエスト症候群	0	195	ヌーナン症候群	0
146	大田原症候群	0	196	ヤング・シンブソン症候群	0
147	早期ミオクロニー脳症	0	197	1p36欠失症候群	0
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	0	198	4p欠失症候群	0
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	0	199	5p欠失症候群	0
150	環状20番染色体症候群	0	200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	0
151	ラスムッセン脳炎	0	201	アンジェルマン症候群	0
152	PCDH19関連症候群	0	202	スミス・マギニス症候群	0
153	難治頻回部分発作重積型急性脳炎	0	203	22q11.2欠失症候群	0
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん 性脳症	0	204	エマヌエル症候群	0
155	ランドウ・クレフナー症候群	0	205	脆弱X症候群関連疾患	0
156	レット症候群	0	206	脆弱X症候群	0
157	スタージ・ウェーバー症候群	0	207	総動脈幹遺残症	0
158	結節性硬化症	0	208	修正大血管転位症	0
159	色素性乾皮症	0	209	完全大血管転位症	0
160	先天性魚鱗癬	0	210	単心室症	0

4 指定難病についての診療

疾患名		患者数	疾患名		患者数
211	左心低形成症候群	0	259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	0
212	三尖弁閉鎖症	0	260	シトステロール血症	0
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	0	261	タンジール病	0
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	0	262	原発性高カイロミクロン血症	0
215	ファロー四徴症	0	263	脳腫黄色腫症	0
216	両大血管右室起始症	0	264	無βリポタンパク血症	0
217	エプスタイン病	0	265	脂肪萎縮症	0
218	アルポート症候群	0	266	家族性地中海熱	0
219	ギャロウェイ・モフト症候群	0	267	高IgD症候群	0
220	急速進行性糸球体腎炎	0	268	中條・西村症候群	0
221	抗糸球体基底膜腎炎	0	269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	0
222	一次性ネフローゼ症候群	6	270	慢性再発性多発性骨髄炎	0
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	0	271	強直性脊椎炎	2
224	紫斑病性腎炎	0	272	進行性骨化性線維異形成症	0
225	先天性腎性尿崩症	0	273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	0
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)	0	274	骨形成不全症	0
227	オスラー病	1	275	タナトフォリック骨異形成症	0
228	閉塞性細気管支炎	0	276	軟骨無形成症	0
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	1	277	リンパ管腫症/ゴーハム病	0
230	肺胞低換気症候群	0	278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	0
231	α1-アンチトリプシン欠乏症	0	279	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	0
232	カーニー複合	0	280	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	1
233	ウォルフラム症候群	0	281	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	1
234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)	0	282	先天性赤血球形成異常性貧血	0
235	副甲状腺機能低下症	0	283	後天性赤芽球癆	1
236	偽性副甲状腺機能低下症	0	284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	0
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	0	285	ファンコニ貧血	0
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	0	286	遺伝性鉄芽球性貧血	0
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	0	287	エプスタイン症候群	0
240	フェニルケトン尿症	0	288	自己免疫性出血病XIII	0
241	高チロシン血症1型	0	289	クロンカイト・カナダ症候群	0
242	高チロシン血症2型	0	290	非特異性多発性小腸潰瘍症	0
243	高チロシン血症3型	0	291	ヒルシュスプルング病(全結腸型又は小腸)	0
244	メープルシロップ尿症	0	292	総排泄腔外反症	0
245	プロピオン酸血症	0	293	総排泄腔遺残	0
246	メチルマロン酸血症	0	294	先天性横隔膜ヘルニア	0
247	イソ吉草酸血症	0	295	乳幼児肝巨大血管腫	0
248	グルコーストランスポーター1欠損症	0	296	胆道閉鎖症	0
249	グルタル酸血症1型	0	297	アラジール症候群	0
250	グルタル酸血症2型	0	298	遺伝性膝炎	0
251	尿素サイクル異常症	0	299	嚢胞性線維症	0
252	リジン尿性蛋白不耐症	0	300	IgG4関連疾患	0
253	先天性葉酸吸収不全	0	301	黄斑ジストロフィー	0
254	ポルフィリン症	0	302	レーベル遺伝性視神経症	0
255	複合カルボキシラーゼ欠損症	0	303	アッシャー症候群	0
256	筋型糖原病	0	304	若年発症型両側性感音難聴	0
257	肝型糖原病	0	305	遅発性内リンパ水腫	0
258	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	0	306	好酸球性副鼻腔炎	1

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・地域歯科診療支援病院歯科初診料	・データ提出加算(2)
・歯科外来診療環境体制加算	・栄養サポートチーム加算
・歯科診療特別対応連携加算	・緩和ケア診療加算
・特定機能病院入院基本料(一般7対1、精神7対1)	・看護職員夜間配置加算
・臨床研修病院入院診療加算	・療養環境加算
・超急性期脳卒中加算	・病棟薬剤業務実施加算(1)
・妊産婦緊急搬送入院加算	・病棟薬剤業務実施加算(2)
・診療録管理体制加算(2)	・退院支援加算(3)
・急性期看護補助体制加算	・精神疾患診療体制加算
・重症者等療養環境特別加算	・精神科リエゾンチーム加算
・医療安全対策加算(1)	・精神科身体合併症管理加算
・感染防止対策加算(1)	・
・感染防止対策地域連携加算	・
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	・
・ハイリスク妊娠管理加算	・
・ハイリスク分娩管理加算	・
・退院支援加算(2)	・
・地域歯科診療支援病院入院加算	・
・特定集中治療室管理料(2)	・
・救命救急入院料(3)(4)(充実度評価A、高度救命救急センター、小児加算)	・
・新生児特定集中治療室管理料	・
・新生児治療回復室入院医療管理料	・
・小児入院医療管理料(2)	・
・救急医療管理加算	・
・無菌治療室管理加算(1)	・
・患者サポート体制充実加算	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・高度難聴指導管理料	・植込型骨導補聴器移植術及び交換術
・糖尿病合併症管理料	・心臓ペースメーカー指導管理料 植込型除細動器移行期加算
・がん性疼痛緩和指導管理料	・持続血糖測定器加算及び皮下連続式グルコース測定
・がん患者指導管理料(1)	・胃瘻造設術
・がん患者指導管理料(2)	・胃瘻造設時嚥下機能評価加算
・がん患者指導管理料(3)	・医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術
・肝炎インターフェロン治療計画料	・高エネルギー放射線治療 1回線量増加加算
・薬剤管理指導料	・HPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)
・医療機器安全管理料(1)(2)(歯科)	・歯科口腔リハビリテーション料(2)
・歯科治療総合医療管理料(Ⅰ)及び(Ⅱ)	・緑内障手術(治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))
・在宅患者歯科治療総合医療管理料(Ⅰ)及び(Ⅱ)	・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)
・造血器腫瘍遺伝子検査	・経皮的冠動脈形成術
・HPV核酸検出	・経皮的冠動脈ステント留置術
・検体検査管理加算(4)	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術
・遺伝カウンセリング加算	・治療抵抗性統合失調症治療指導管理料
・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	・ポジトロン断層撮影
・植込型心電図検査	・ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影
・皮下連続式グルコース測定	・輸血管理料(1)・適正使用加算
・長期継続頭蓋内脳波検査	・画像誘導放射線治療加算(IGRT)
・神経学的検査	・透析液水質確保加算(2)
・補聴器適合検査	・病理診断管理加算(2)
・コンタクトレンズ検査料(1)	・口腔病理診断管理加算(1)
・小児食物アレルギー負荷検査	・外来緩和ケア管理料
・内服・点滴誘発試験	・画像診断管理加算(2)
・センチネルリンパ節生検	・定位放射線治療
・CT撮影及びMRI撮影	・体外照射呼吸性移動対策加算
・抗悪性腫瘍剤処方管理加算	・定位放射線治療呼吸性移動対策加算

・外来化学療法加算(1)	・外傷全身CT加算
・無菌製剤処理料	・冠動脈CT撮影加算
・脳血管疾患等リハビリテーション料(1)	・心臓MRI撮影加算
・運動器リハビリテーション料(1)	・強度変調放射線治療(IMRT)
・呼吸器リハビリテーション料(1)	・CAD/CAM冠
・脳血管疾患等リハビリテーション料(1)の初期加算	・乳房MRI撮影加算
・運動器リハビリテーション料(1)の初期加算	・胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る)
・呼吸器リハビリテーション料(1)の初期加算	・骨移植術(軟骨移植術を含む)(同種骨移植(非生体)(同種骨移植)(特殊なものに限る))
・医療保護入院等診療料	・腹腔鏡下肝切除術
・一酸化窒素吸入療法	・硬膜外自家血注入
・歯科技工加算(1)及び(2)	・遺伝学的検査
・悪性黒色腫センチネルリンパ節加算	・腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。)及び交換術, 脊髄刺激装置植込術及び交換術	・検査・画像情報提供加算及び電子的診療情報評価料
・人工内耳植込術	・腹腔鏡下小切開骨盤内リンパ節群郭清術
・乳がんセンチネルリンパ節加算(1)(2)	・腹腔鏡下小切開後腹膜リンパ節群郭清術
・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)(高速回転式経皮経管アテレクトミーカテーテルによるものに限る)	・腹腔鏡下小切開後腹膜腫瘍摘出術
・経皮的中隔心筋焼灼術	・腹腔鏡下小切開後腹膜悪性腫瘍手術
・ペースメーカー移植術及び交換術	・腹腔鏡下小切開副腎摘出術
・呼吸ケアチーム加算	・腹腔鏡下小切開腎部分切除術
・心大血管疾患リハビリテーション料(1)	・腹腔鏡下小切開腎摘出術
・人工尿道括約筋植込・置換術	・腹腔鏡下小切開尿管腫瘍摘出術
・ゲル充填人口乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)	・腹腔鏡下小切開腎(尿管)悪性腫瘍手術
・認知症専門診断管理料	・腹腔鏡下小切開膀胱腫瘍摘出術
・臓器移植後患者指導管理料	・肺悪性腫瘍手術(壁側・臓側胸膜全切除(横隔膜、心膜合併切除を伴うもの)に限る。
・骨移植術	

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
磁気ナビゲーションを用いた分子イメージング標的病変検出支援型超音波診断装置の開発	中野 正吾	乳腺・内分泌外科	¥5,070,000	補委 日本学術振興会
細胞外マトリックス成分の生合成からみた乳癌・甲状腺癌転移浸潤機構の解明	手塚 理恵	乳腺・内分泌外科	¥4,940,000	補委 日本学術振興会
甲状腺癌における細胞外マトリックス成分の発現動態を介した癌転移浸潤機構の解明	高阪 絢子	乳腺・内分泌外科	¥4,940,000	補委 日本学術振興会
脳水チャネルアクアポリンのRNAi機能調節による脳浮腫抑制の臨床応用	藤田義人	愛知医科大学医学部	¥1,950,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
消化管運動障害でのアストロサイトを介する腸管神経系制御機構の役割と麻酔薬作用	橋本篤	愛知医科大学医学部	¥1,300,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
恐怖記憶形成における麻酔薬作用の分子科学的機序の解明	木下浩之	愛知医科大学医学部	¥1,040,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
若年女性のスポーツ障害の解析とその予防と治療 (分担研究) 女性アスリートの指導における問題解決への提言と管理マニュアル開発	若槻明彦	産婦人科学講座	¥1,000,000	補委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
妊娠高血圧症候群の発症予知・予防ならびに降圧管理に関する総合的研究	鈴木佳克	周産期母子医療センター	¥1,300,000	補委 科学研究費 基盤研究(C)
ローヤルゼリーによる閉経後骨量減少に対する抑制効果の研究	松下宏	産婦人科学講座	¥5,000,000	補委 一般社団法人 全国ローヤルゼリー公正取引協議会
子宮体癌と体脂肪分布の関連についての臨床病理学的研究	松下宏	産婦人科学講座	¥500,000	補委 一般財団法人 愛知健康増進財団
甲状腺眼症における筋線維芽細胞の起源の研究	柿崎 裕彦	眼科	¥650,000	補委 日本学術振興会
ドライアイと眼瞼圧の関連の解明	高橋 靖弘	眼科	¥2,730,000	補委 日本学術振興会
新生児低酸素虚血性脳症に対する脳低温療法におけるグリアに注目した新規脳保護療法	垣田博樹	周産期母子医療センター	¥1,690,000	補委 日本学術振興会
糖尿病性多発神経障害におけるグルコース応答性KATPチャネルの役割の解明	姫野 龍仁	糖尿病内科	¥1,560,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
日本医療研究開発機構 (AMED) 自己免疫性肺胞蛋白症に対する酵母由来組換え GM-CSF 吸入の多施設共同臨床試験	山口 悦郎	呼吸器・アレルギー内科	¥769,231	補委 日本医学研究開発機構
日本医療研究開発機構 (AMED) 肺胞蛋白症、遺伝性間質性肺疾患に関する研究: 重症難治化要因とその克服	山口 悦郎	呼吸器・アレルギー内科	¥500,000	補委 日本医学研究開発機構
自己免疫性肺胞蛋白症の自己抗体エピソード解析	山口 悦郎	呼吸器・アレルギー内科	¥1,100,000	補委 日本学術振興会
侵襲下における血管新生と血管透過性の動態解析: 幹細胞移植による再生治療の試み	武山直志	愛知医科大学病院救命救急科	¥2,210,000	補委 日本学術振興会
原発性胆汁性肝硬変 (PBC) における肝繊維化の機序とサイトカインの検討	津田雅庸	愛知医科大学病院救命救急科	¥910,000	補委 日本学術振興会
敗血症下における免疫異常と成体幹細胞動態解析: 骨髄移植による再生治療の試み	武山直志	愛知医科大学病院救命救急科	¥130,000	補委 日本学術振興会
ES細胞由来神経前駆細胞を用いた、脳血管障害の神経再生療法への挑戦	武山直志	愛知医科大学病院救命救急科	¥130,000	補委 日本学術振興会
腎移植における慢性抗体関連型拒絶反応制御のための総合的戦略	小林孝彰	外科学講座 (腎移植外科)	¥4,290,000	補委 日本学術振興会
抗体機能の多様性解析から戦略へ: ABO不適合・HLA抗体陽性移植モデルブタの作成	小林孝彰	外科学講座 (腎移植外科)	¥2,080,000	補委 日本学術振興会
移植腎グラフトにおける抗体抵抗性生存シグナル誘導による慢性拒絶反応の予防	岩崎研太	腎疾患移植免疫学寄附講座	¥1,560,000	補委 日本学術振興会
造血幹細胞移植関連遺伝子多型の機能解析とゲノム標的治療の探索	高見 昭良	血液内科	¥1,500,000	補委 日本学術振興会
移植免疫反応の遺伝子多型とその機序の解析	高見 昭良	血液内科	¥409,091	補委 日本医療研究開発機構 (AMED)
成人慢性好中球減少症の診断と病態に関する疫学調査	高見 昭良	血液内科	¥615,385	補委 日本医療研究開発機構 (AMED)

幹細胞のオートファジーメカニズム解明による組織再生プロローグ	山田陽一	歯科口腔外科	¥1,560,000	補委	日本学術振興会
歯髄幹細胞特性を応用した効率的組織再生療法の臨床応用ロジスティクス	山田陽一	歯科口腔外科	¥7,670,000	補委	日本学術振興会
高齢者の難聴の発症機構と予防・治療の標準化に関する研究(25-2)	内田 育恵	耳鼻咽喉科	¥3,000,000	補委	厚生労働省/国立長寿医療研究センター(長寿医療研究開発費)
聴覚コミュニケーション障害からみた高齢者・障害者・認知症ケアの在り方に関する検討(26502016)	内田 育恵	耳鼻咽喉科	¥700,000	補委	日本学術振興会
骨強度評価を用いた癌骨関連有害事象発生リスク予測法の確立—有限要素解析の応用—	若尾典充	脊椎脊髄センター	¥4,810,000	補委	文部科学省科研費
胸部脊髄神経後肢三枝の走行についての三次元的構造解析	斎藤敏之、若尾典充(分担)	脊椎脊髄センター	¥4,750,000	補委	文部科学省科研費
ステロイド性骨粗鬆症に対する骨粗鬆症薬の効果—前向き研究—	若尾典充	脊椎脊髄センター	¥500,000	補委	日本骨粗鬆症学会・クオールRD
リンパ腫微小環境に存在する多能性幹細胞MUSEの機能解析	中山 享之	輸血部	¥1,400,000	補委	日本学術振興会
脂肪由来間葉系幹細胞を用いた造血支持療法	中山 享之	輸血部	¥1,500,000	補委	名古屋大学橋渡し研究シーズA
ノンコーディングRNAによりヒトES細胞の神経分化制御機構の解析	岡田洋平	神経内科・脳卒中センター	¥3,900,000	補委	文部科学省
不完全なリプログラミングとゲノム不安定性を指標としたヒトiPS細胞の品質評価	岡田洋平	神経内科・脳卒中センター	¥6,760,000	補委	文部科学省
疾患特異的iPS細胞由来ニューロンにおける異常タンパク凝集を促すストレスシグナルの解析	岡田洋平	神経内科・脳卒中センター	¥2,340,000	補委	文部科学省
疾患特異的iPS細胞を用いた球脊髄性筋萎縮症の病態解析と新規治療法の開発	岡田洋平	神経内科・脳卒中センター	¥24,600,000	補委	日本医療研究開発機構
孤発性ALS患者大規模前向きコホートの臨床バイオリソース・ゲノム遺伝子・不死化細胞を用いた病態解明、治療法開発研究	岡田洋平	神経内科・脳卒中センター	¥1,600,000	補委	日本医療研究開発機構
疾患特異的iPS細胞を用いた球脊髄性筋萎縮症の病態解明・治療法開発のための効率的解析システムの開発	岡田洋平	神経内科・脳卒中センター	¥9,900,000	補委	日本医療研究開発機構
ヒトiPS細胞由来神経幹細胞のゲノム不安定性と造腫瘍性を規定する因子の検討	岡田洋平	神経内科・脳卒中センター	¥1,000,000	補委	日本損害保険協会
神経分化に伴うゲノム不安定性を指標としたヒトiPS細胞の新しい品質評価法の開発	岡田洋平	神経内科・脳卒中センター	¥2,000,000	補委	武田科学振興財団
ヒトiPS細胞の造腫瘍性に基づく新しい品質評価法の開発	岡田洋平	神経内科・脳卒中センター	¥5,000,000	補委	上原記念生命科学財団
救急医療体制の推進に関する研究	野口 宏	愛知医科大学病院救命救急科	¥140,000	補委	厚生労働省
大腸癌における上皮細胞増殖因子関連新規分子標的遺伝子の機能解析	小笠原尚高	消化器内科	¥1,300,000	補委	日本学術振興会
慢性の痛み診療・教育の基盤となるシステム構築に関する研究	牛田 享宏	学際的痛みセンター	¥50,000,000	補委	厚生労働行政推進調査事業費
精神領域における早期診断法開発のための新しい臨床性能試験デザイン	室谷 健太	臨床研究支援センター	¥1,430,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
次世代拡散MRI解析を用いた小児神経疾患の脳微細構造解析	奥村彰久	小児科	¥1,200,000	補委	文部科学研究費助成事業
胎児発育不全児の中樞神経障害に対する幹細胞治療の開発	奥村彰久	小児科	¥200,000	補委	文部科学研究費助成事業
小児の急性脳症・けいれん重積状態の診療指針の確立	奥村彰久	小児科	¥200,000	補委	厚生労働科学研究費補助金
希少難治性てんかんのレジストリ構築による総合的研究	奥村彰久	小児科	¥300,000	補委	厚生労働科学研究費補助金
新型インフルエンザ等への対応に関する研究	奥村彰久	小児科	¥769,231	補委	日本医療研究開発機構研究費
小児がん分子中央診断の推進と高度先駆的診断法開発に関する研究	堀壽成	小児科	¥2,700,000	補委	独立行政法人国立成育医療研究開発費
小児造血器腫瘍(リンパ系腫瘍)に対する標準治療確立のための研究	堀壽成	小児科	¥384,616	補委	日本医療研究開発機構研究費
発熱に伴うけいれん重積の超急性期免疫学的反応の解析	倉橋宏和	小児科	¥1,000,000	補委	公益財団法人てんかん治療研究振興財団研究費

AAV9を用いたMCT8変異による甲状腺ホルモン輸送障害の遺伝子治療の開発	岩山秀之	小児科	¥1,000,000	補委	第32回日東学術振興財団研究助成金
モノクローナル抗体をもちいたアスパラギナーゼ感受性腫瘍の検索	鬼頭敏幸	小児科	¥4,000,000	補委	文部科学研究費助成事業
脳脊髄液減少症の診断・治療の確立に関する研究(分担)	高安正和	脳神経外科	¥250,000	補委	厚生労働省
慢性硬膜下血腫被膜の自然退縮におけるapoptosis	大須賀浩二	脳神経外科	¥1,200,000	補委	日本学術振興会
頸神経根の微小循環動態の解明	竹内幹伸	脳神経外科	¥1,690,000	補委	日本学術振興会

計 62件

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- (注) 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- (注) 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印を付けた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1) 高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	高阪 絢子	乳腺・内分泌外科	Targeted sonography using an image fusion technique for evaluation of incidentally detected breast lesions on chest CT: a pilot study.	Breast cancer.23 (2) 301-9
2	毛利 (塩見) 有佳子	乳腺・内分泌外科	Clinical significance of circulating tumor cells (CTCs) with respect to optimal cut-off value and tumor markers in advanced/metastatic breast cancer.	Breast cancer.23 (1) 120-7
3	Ito S, Tsukiyama I, Ando M, Katakami M, Hamanaka R, Kosaka K	愛知医科大学 薬剤部	Therapeutic and Preventive Antiemetic Effect of Aprepitant in Japanese Patients with Thoracic Malignancies Who Truly Need It.	Support Care Cancer 23, 905-12, 2015, DOI 10.1007/s00520-014-2430-x
4	Kubo A, Tsukiyama I, Tsukiyama S, Ejiri M, Matsuura K, Yamaguchi	愛知医科大学 呼吸器・アレルギー内科	NK-1 Receptor Antagonists: Who Truly Need them and their Cost-Effectiveness Analysis?	Chemotherapy Open Access 5, 197, 2016, Doi: 10.4172/2167-7700.1000197
5	Kazuo Ando	Department of Anesthesiology, Aichi Medical University School of Medicine, Nagakute, Aichi, Japan	Centrally administered isoproterenol induces sympathetic outflow via brain prostaglandin E2-mediated mechanisms in rats	Autonomic Neuroscience 189: 1-7 2015
6	Kensuke Sakakibara	Department of Anesthesiology, Aichi Medical University School of Medicine, Nagakute, Aichi, Japan	Kynurenine causes vasodilation and hypotension induced by activation of KCNQ-encoded voltage-dependent K ⁺ channels	Journal of Pharmacological Sciences 129(3): 31-7 2015
7	Yukiko Mori	Department of Anesthesiology, Aichi Medical University School of Medicine, Nagakute, Aichi, Japan	Cerebral oxygenation in the beach chair position before and during general anesthesia in patients with and without cardiovascular risk factors	Journal of Clinical Anesthesia 27(6): 457-62 2015
8	Jiazheng Li	Department of Anesthesiology, Aichi Medical University School of Medicine, Nagakute, Aichi, Japan	Propofol reduces liver dysfunction caused by tumor necrosis factor- α production in Kupffer cells	Journal of Anesthesia 30(3): 420-6 2016
9	Arita A,	Department of Sleep Medicine, Aichi Medical University School of Medicine,	Risk factors for automobile accidents caused by falling asleep while driving in obstructive sleep apnea syndrome.	Sleep Breath. 2015; 19(4): 1229-1234.
10	Yoshida A	Department of Obstetrics and Gynecology, Aichi Medical University School of Medicine	Parasitic myoma in women after laparoscopic myomectomy: A late sequela of morcellation?	J Obstet Gynaecol 2015;35(3):322-3
11	Watanabe K	Department of Obstetrics and Gynecology, Aichi Medical University School of Medicine	Pregnancy-induced hypertension is associated with an increase in the prevalence of cardiovascular disease risk factors in Japanese women	Menopause 2015;22(6):656-9
12	Iwasaki K	Department of Obstetrics and Gynecology, School of Medicine, Aichi Medical University	Role of hypoxia-inducible factor-1 α , carbonic anhydrase-IX, glucose transporter-1 and vascular endothelial growth factor associated with lymph node metastasis and recurrence in patients with locally advanced cervical cancer	Oncol Lett 2015;10(4):1970-1978
13	Morii Y	Department of Obstetrics and Gynecology, Aichi Medical University School of Medicine	Results in greater bone mass and bone formation indices in ovariectomized rats: a preliminary study	Phytother Res 2015;29(12):1950-6
14	Wakatsuki A	Department of Obstetrics and Gynecology, Aichi Medical University School of Medicine	Annual report of the Women's Health Care Committee, Japan Society of Obstetrics and Gynecology, 2015	J Obstet Gynaecol Res 2016;42(2):115-27
15	柿崎 裕彦	愛知医科大学眼科、Seonam医科大学眼科 (韓国)、愛知医科大学解剖学、愛知医科大学病理学	Two Types of the Sinus of Maier: An Anatomic Study.	Orbit. 34 (5) :253-6, 2015
16	高橋 靖弘	愛知医科大学眼科	Eight-flap anastomosis in external dacryocystorhinostomy.	Br J Ophthalmol. 99 (11):1527-30, 2015
17	高橋 靖弘	愛知医科大学眼科	Predictors of the Dose-Effect Relationship regarding Unilateral Inferior Rectus Muscle Recession in Patients with Thyroid Eye Disease.	Int J Endocrinol. 2015:703671, 2015
18	高橋 靖弘	愛知医科大学眼科	Meibomian Gland Dysfunction in Cranial Nerve VII Palsy.	Ophthal Plast Reconstr Surg. 31 (3):179-81, 2015
19	高橋 靖弘	愛知医科大学眼科、愛知医科大学病院病理部、神戸大学形成外科	Orbital Compartment Syndrome in Eosinophilic Angiocentric Fibrosis.	Ophthal Plast Reconstr Surg. 31 (4):e98-e100, 2015
20	高橋 靖弘	愛知医科大学眼科、Seonam医科大学眼科 (韓国)	Axial Globe Length in Congenital Ptosis.	J Pediatr Ophthalmol Strabismus. 52(3):177-82, 2015
21	高橋 靖弘	愛知医科大学眼科、群馬大学口腔外科、アデレード大学眼科 (オーストラリア)	Lower Eyelid Reconstruction for Iatrogenic Eyelid-to-Globe Malposition.	J Craniofac Surg. 26(3):e268-70, 2015
22	高橋 靖弘	愛知医科大学眼科、井出眼科病院	External Dacryocystorhinostomy With or Without Double Mucosal Flap Anastomosis: Comparison of Surgical Outcomes.	J Craniofac Surg. 26(4):1290-3, 2015
23	高橋 靖弘	愛知医科大学眼科	Orbital Decompression for Compressive Optic Neuropathy in Patients with a Metastatic Orbital Tumor from Breast Carcinoma.	Orbit. 34(3):137-41, 2015
24	高橋 靖弘	愛知医科大学眼科	Concomitant Traumatic Macular Hole and Orbital Blowout Fracture with a Baseball Injury.	Orbit. 34(3):164-5, 2015
25	高橋 靖弘	愛知医科大学眼科、Seonam医科大学眼科 (韓国)	Lower incidence of chemosis with the Berke incision approach versus the swinging eyelid approach after deep lateral orbital wall decompression.	J Plast Surg Hand Surg. 50(1):15-8, 2016
26	松田 弘道	愛知医科大学眼科、和歌山医科大学放射線科、愛知医科大学病院病理部	No Intense 18F-Fluorodeoxyglucose Uptake in Positron Emission Tomography of a Metastatic Orbital Tumor From Breast Carcinoma.	Ophthal Plast Reconstr Surg. 31(4):e95-8, 2015
27	Daisuke Muto	perinatal and neonatal medical	Fetal tension pneumopericardium in an extremely low birth weight infant to identify the perforation site of the pericardium.	Pediat Therapeut 2016, 6:277
28	Hiroko Ueda	perinatal and neonatal medical	Neonatal central diabetes insipidus caused by severe perinatal asphyxia.	Pediat Therapeut 2016, 6:278
29	近藤 正樹	糖尿病内科	Therapeutic efficacy of bone marrow-derived mononuclear cells in diabetic polyneuropathy is impaired with aging or diabetes.	J Diabetes Investig
30	姫野 龍仁	糖尿病内科	Angioblast derived from ES cells construct blood vessels and ameliorate diabetic polyneuropathy in mice.	J Diabetes Research
31	浅井 信博	呼吸器・アレルギー内科	Successful treatment of non-small cell lung cancer with gefitinib after erlotinib-induced severe eyelid erosion: Two case reports	Journal of cancer research and therapeutics
32	水野 昌平	血液内科	Overexpression of salivary-type amylase reduces the sensitivity to bortezomib in	Int J Hematol. 2015 Sep 4.
33	水谷 元紀	血液内科	Comparable outcomes between autologous and allogeneic transplant for adult acute	Bone Marrow Transplantatio

34	Sato. K	愛知医科大学 肝胆膵内科	Vitamin E has a beneficial effect on nonalcoholic fatty liver disease: a meta-analysis of randomized controlled trials	Nutrition. 2015 Jul-Aug;31(7-8):923-30.
35	Yamamoto T	愛知医科大学 肝胆膵内科	Glucagon-like peptide-1 analogue prevents nonalcoholic steatohepatitis in non-obese mice.	World J Gastroenterol. 2016 Feb 28;22(8):2512-23.
36	今井 裕一	腎臓・リウマチ膠原病内科	Hypertensive Crisis and Left Ventricular Thrombi after an Upper Respiratory Infection during the Long-term Use of Oral Contraceptives.	Intern Med. 2016;55(1):83-8.
37	今井 裕一	腎臓・リウマチ膠原病内科	Morganella morganii Peritonitis Associated with Continuous Ambulatory Peritoneal Dialysis (CAPD) after Colonoscopy.	Intern Med. 2016;55(2):165-8.
38	今井 裕一	腎臓・リウマチ膠原病内科	Circulating antibodies to α -enolase and phospholipase A2 receptor and composition of glomerular deposits in Japanese patients with primary or secondary membranous nephropathy.	Clin Exp Nephrol. 2016 Feb 1. [Epub ahead of print]
39	山岸 由佳	感染症科	Pharmacokinetic study of garenoxacin in severe renal failure patients. Yamagishi Y, Hagihara M, Hamada Y, Kimura Y, Imai H, Mikamo H.	Jpn J Antibiot. 2015 Jun;68(3):141-50.
40	T Ono	愛知医科大学病院	Plumbagin suppresses tumor cell growth in oral squamous cell carcinoma cell lines.	Oral Diseases. 21(4):501-11. 2015
41	3. Yamada, Y	愛知医科大学病院	Papilla regeneration by injectable stem cell therapy with regenerative medicine - long term clinical prognosis.	J Tissue Eng Regen Med. 9(3):305-309. 2015.
42	谷川 徹	耳鼻咽喉科	Soybean β -Conglycinin Prevents Age-Related Hearing	PLoS One. 2015;10:e0137493
43	谷川 徹	耳鼻咽喉科	Efficacy and safety of pilocarpine mouthwash in elderly patients with xerostomia	Spec Care Dentist. 2015 :35:164-9.
44	沼波宏樹	呼吸器外科	Metastatic embryonal carcinoma mimicking locally advanced non-small cell lung cancer.	Internal medicine 54(1):59-61 2015
45	Hirasawa A	Aichi Med Univ., Clin Res Ctr., Dept Spine Ctr., Dept Orthoped Surg., Dept Rehabil., Div Biostat & Biostat Univ., Dept Orthoped Surg., & Neuros Univ., Dept Orthoped Surg.	The prevalence of diffuse idiopathic skeletal hyperostosis in Japan - the first report of measurement by CT and review of the literature.	J Orthop Sci 21(3):287-90 2016
46	Kawanami K	Aichi Med Univ., Spine Ctr., Dept Orthoped, Surg., Div Biostat	Effect of Denosumab Administration on Lumbar Vertebral Strength of Patients with Vertebral Bony Metastases: Preliminary Study.	Anticancer Res. 36(3):1027-31. 2016
47	Wakao N	Aichi Med Univ., Dept Spine Ctr., Dept Orthopaed Surg., Div Biostat	Risks for Vascular Injury During Anterior Cervical Spine Surgery: Prevalence of a Medial Loop of Vertebral Artery and Internal Carotid Artery.	Spine 41(4):293-8. 2016
48	Makoto Sumitomo	Department of Urology, Aichi Medical University School of Medicine	Comparative investigation on clinical outcome of robot-assisted radical prostatectomy between experienced open prostatic surgeons and novice open surgeons in a laparoscopically naive center with a limited case load	International Journal of Urology 2015 May;22(5):469-74
49	Ikuo Kobayashi	Department of Urology, Aichi Medical University School of Medicine	Penetration of piperacillin-tazobactam into human prostate tissue and dosing considerations for prostatitis based on site-specific pharmacokinetics and pharmacodynamics	Journal of Infection and Chemotherapy 21(2015):575-580
50	Keishi Kajikawa	Department of Urology, Aichi Medical University	Optimal method for measuring tumor extent in needle biopsy specimens to identify small-volume prostate cancer.	International Journal of Urology 2016 Jan;23(1):62-8
51	Hidefumi Kato, Takayuki Nakayama	Department of Transfusion Medicine, Aichi Medical University	Repeated exposure rather than the total volume of transfused components may influence the incidence of allergic transfusion reactions.	Transfusion 2015 Nov;55(11):2576-81
52	Hidefumi Kato	Department of Transfusion Medicine, Aichi Medical University	Recommendations for the electronic pre-transfusion check at the bedside.	Blood Transfus 2016 Mar;21:1-6
53	Hidefumi Kato, Takayuki Nakayama	Department of Transfusion Medicine, Aichi Medical University	A retrospective observational study to assess adverse transfusion reactions of patient with and without prior transfusion history	Vox Sanguinis 2015 108(3):243-50
54	岡田洋平	神経内科・脳卒中センター	Utility of Scalp Hair Follicles as a Novel Source of Biomarker Genes for Psychiatric Illnesses.	Biological Psychiatry 2015; 78(2):116-125
55	岡田洋平	神経内科・脳卒中センター	Long-term Safety Issues of iPSC-Based Cell Therapy in a Spinal Cord Injury Model: Oncogenic Transformation with Epithelial-Mesenchymal Transition.	Stem Cell Reports 2015;4(3):360-373.
56	岡田洋平	神経内科・脳卒中センター	Differentiation of multipotent neural stem cells derived from Rett syndrome patients is biased toward the astrocytic lineage.	Molecular Brain 2015; 8:31-42
57	岡田洋平	神経内科・脳卒中センター	T20201 mutant LRRK2 iPSC-derived neurons in the Sagami-hara family exhibit increased Tau phosphorylation through the AKT/GSK-3 β signaling pathway.	Human Molecular Genetics 2015; 24(17)4879-4900
58	岡田洋平	神経内科・脳卒中センター	Investigation of the fatty acid transporter-encoding genes SLC27A3 and SLC27A4 in autism.	Scientific Reports 2015;05:16239
59	岡田洋平	神経内科・脳卒中センター	Rapid, efficient, and simple motor neuron differentiation from human pluripotent stem cells.	Molecular Brain 2015; 8(1):79
60	Goji S, Tamura Y, Sasaki M, Nakamura M, Matsui H, Murayama M, Okaniwa N, Sasaki M, Mizushima T, Ogasawara N, Funaki Y, Joh T.	Department of Gastroenterology, Aichi Medical University School of Medicine	Helicobacter suis-Infected Nodular Gastritis and a Review of Diagnostic Sensitivity for Helicobacter heilmannii-Like Organisms.	Case Rep Gastroenterol 9(2):178-187. 2015
61	Okaniwa N, Sasaki M, Mizushima T, Ogasawara N, Funaki Y, Joh T.	Department of Gastroenterology, Aichi Medical University School of Medicine	eNOS plays an important role in the regulation of colonic inflammation: a novel therapeutic target and a predictive marker for the prognosis of ulcerative colitis.	Free Radic Res 49(1):35-44. 2015
62	Naotaka Ogasawara, Emiko Takahashi, Tomoko Matsumoto.	Department of Gastroenterology, Aichi Medical University School of Medicine	Prolonged survival in a case of chemotherapy-sensitive gastric cancer that produced alpha-fetoprotein and protein induced by vitamin K antagonist-II	Case Rep Gastroenterol
63	Noda H, Ogasawara N, Izawa S, Ozeki T, Yamamoto K, Okaniwa N.	Department of Gastroenterology, Aichi Medical University School of Medicine	Risk factors for bleeding evaluated using the Forrest classification in Japanese patients after endoscopic submucosal dissection for early gastric neoplasm.	Eur J Gastroenterol Hepatol. 2015 Sep;27(9):1022-9
64	Iamura Y, Funaki Y, Adachi K, Noda H, Izawa S, Iida A.	Department of Gastroenterology, Aichi Medical University School of Medicine	A Patient with Vigorous Achalasia and Rapid Enlargement of an Epiphrenic Esophageal Diverticulum.	Intern Med. 2015;54(13):1609-12.
65	Iamura Y, Funaki Y, Izawa S, Iida A, Yamaguchi Y, Adachi K, Isuda S, Iwahori Y, Hanai Y, Bhuyan MK, Woodham RJ, Kasugai K.	Department of Gastroenterology, Aichi Medical University School of Medicine	Pathophysiology of functional heartburn based on Rome III criteria in Japanese patients.	World J Gastroenterol. 2015 Apr 28;21(16):5009-16.
66	Isuda S, Iwahori Y, Hanai Y, Bhuyan MK, Woodham RJ, Kasugai K.	Department of Gastroenterology, Aichi Medical University School of Medicine	Recovering Size and Shape of Polyp from Endoscope Image by RBF-NN Modification.	1-5, IEEE ICIP 2015. 2015.
67	Atsushi Iinabe, Makoto Sasaki, Yoshitsugi Ito, Akihiro	Department of Gastroenterology, Aichi Medical University School of Medicine	A Matched Case-control Study of the Association between Low-dose Aspirin and Peptic Ulcers in Patients without a History of Peptic Ulcers.	Gastroenterol Pancreatol Liver Disord.: 2(3):1-5. 2015.
68	Hiratsugu Noda, Naotaka Ogasawara, Akira Koshino, Shouko	Department of Gastroenterology, Aichi Medical University School of Medicine	Thread-Traction with a Sheath of Polypectomy Snare Facilitates Endoscopic Submucosal Dissection of Early Gastric Cancers	Gastroenterol Res Pract. 2015;2015:265387. doi: 10.1155/2015/265387. Epub 2015 Jun 10.
69	Kazuhiro Yoshikawa	Promoting Center for Clinical Research; Cell Therapy Center; Aichi Medical University, School of	Centrally administered isoproterenol induces sympathetic outflow via brain prostaglandin E2-mediated mechanisms in rats.	Auton Neurosci. 2015 May;89:1-7
70	Kazuhiro Yoshikawa	Promoting Center for Clinical Research; Cell Therapy Center; Aichi Medical University, School of	Evaluation of in vivo responses of sorafenib therapy in a preclinical mouse model of PTEN-deficient prostate cancer.	J Transl Med. 2015 May 8:13:150
71	Susumu Suzuki	Department of Tumor Immunology; Cell Therapy Center; Aichi Medical University	Prognostic Significance of Tryptophan Catabolism in Adult T-cell Leukemia/Lymphoma.	Clin Cancer Res. 2015 Jun 15;21(12):2830-9

72	Kazuhiro Yoshikawa	Division of Advanced Research Promotion Institute of Comprehensive Medical Research: Cell Therapy	Changes in hypothalamic neurotransmitter and prostanoid levels in response to NMDA, CRF, and GLP-1 stimulation.	Anal Bioanal Chem. 2015 Jul;407(18):5261-72
73	Kazuhiro Yoshikawa	Division of Advanced Research Promotion Institute of Comprehensive Medical Research: Cell Therapy	Conditional PTEN-deficient mice as a prostate cancer chemoprevention model.	Asian Pac J Cancer Prev. 2015;16(5):1827-31
74	Susumu Suzuki	Department of Tumor Immunology: Cell Therapy Center: Aichi Medical University	Phase Ia Study of FoxP3+ CD4 Treg Depletion by Infusion of a Humanized Anti-CCR4 Antibody, KW-0761, in Cancer Patients.	Clin Cancer Res. 2015 Oct 1;21(19):4327-36
75	Kazuhiro Yoshikawa	Division of Advanced Research Promotion Institute of Comprehensive Medical Research: Cell Therapy	Efficacy of targeted AKT inhibition in genetically engineered mouse models of PTEN-deficient prostate cancer.	Uncotarget. 2016 Mar 29;7(13):15959-76
76	Susumu Suzuki	Department of Tumor Immunology: Cell Therapy Center: Aichi Medical University	Current status of immunotherapy.	Jpn J Clin Oncol. 2016 Mar;46(3):191-203
77	脇田嘉登	総合診療科	Effect of left ventricular diastolic dysfunction on the onset of vasovagal syncope	The Autonomic Nervous System 53(1): 41-48, 2016
78	脇田嘉登	総合診療科	Usefulness of serum C-reactive protein for the management of aspiration pneumonia in primary care	愛知医科大学医学雑誌 43(3/4): 41-50, 2015
79	牛田 享宏	学際的痛みセンター	Burdensome problems of chronic musculoskeletal pain and future prospects.	J Orthop Sci. 2015 Nov;20(6):958-66.
80	井上 真輔	学際的痛みセンター	Chronic Pain in the Japanese Community—Prevalence, Characteristics and Impact on Quality of Life.	PLoS One. 2015 Jun 15;10(6):e0129262.
81	牛田 享宏	学際的痛みセンター	The effect of guidance for home exercise and activities of daily living on female adolescents experiencing adverse events after human papillomavirus vaccination in Japanese multidisciplinary pain centres.	Pain Res Manag. 2015 Oct 16. pii: 17124.
82	Murotani. K	Division of Biostatistics, Clinical Research Center	Follow-up Design for Comparing Two Binary Diagnostic Tests.	Austin Biometrics and Biostatistics
83	Akihisa Okumura	小児科	Anti-aquaporin 4 antibody-positive acute disseminated encephalomyelitis.	Brain Dev. 2015;37:339-43.
84	Akihisa Okumura	小児科	Sustained improvement of attitudes about epilepsy following a reduction in media	Epilepsy Behav. 2015;48:41-4.
85	Akihisa Okumura	小児科	Epilepsy phenotypes in siblings with Norrie disease.	Brain Dev. 2015;37: 978-82.
86	Akihisa Okumura	小児科	Phenotypes of children with 20q13.3 microdeletion affecting KCNQ2 and CHRNA4.	Epileptic Disord. 2015;17:165-71.
87	Akihisa Okumura	小児科	Epilepsies in children with 2q24.3 Deletion/Duplication.	J Pediatr Epilepsy. 2015;4:8-16.
88	Inoue T, Naitoh I, Okumura F, Ozeki T, Anbe K, Iwasaki H, Nishie H, Mizushima T, Sano H, Nakazawa T, Yoneda M, Joh T	愛知医科大学内科学講座 (肝胆臓内科)	Reintervention for stent occlusion after bilateral self-expandable metallic stent placement for malignant hilar biliary obstruction.	Dig Endosc. 2016 Mar 22. doi: 10.1111/den.12657. [Epub ahead of print]
89	Inoue T, Okumura F, Naitoh I, Fukusada S, Kachi K, Ozeki T, Anbe K, Iwasaki H, Mizushima T, Kobayashi Y, Ishii N, Ito K, Yamamoto T, Nakade Y, Yamauchi T	愛知医科大学内科学講座 (肝胆臓内科)	Feasibility of the placement of a novel 6-mm diameter threaded fully covered self-expandable metal stent for malignant hilar biliary obstructions (with videos).	Gastrointest Endosc. 2016 Apr 6. pii: S0016-5107(16)30017-7. doi: 10.1016/j.gie.2016.03.1501. [Epub ahead of print]
90	Kobayashi Y, Ishii N, Ohashi T, Ito K, Sato K, Fukuzawa Y, Yoneda M	愛知医科大学内科学講座 (肝胆臓内科)	Glucagon-like peptide-1 analogue prevents nonalcoholic steatohepatitis in non-obese mice.	World J Gastroenterol. 2016 Feb 28;22(8):2512-23.
91	Yoneda M, Hasegawa T, Sato K	愛知医科大学内科学講座 (肝胆臓内科)	Vitamin E therapy on NAFLD/NASH	Nutrition. 31:898-9, 2015
92	Sato K, Goshō M, Yamamoto T, Kobayashi Y, Ishii N, Ohashi T, Nakade Y, Ito K, Fukuzawa Y, Yoneda M	愛知医科大学内科学講座 (肝胆臓内科)	Vitamin E has a beneficial efficacy on nonalcoholic fatty liver disease: a meta-analysis of randomized controlled trials	Nutrition. 31:923-30, 2015
93	Nakade Y, Yoneda M	愛知医科大学内科学講座 (肝胆臓内科)	Relationship between Non-alcoholic Fatty Liver Disease and Thyroid Dysfunction.	Intern Med. 2016;55(15):1941-2.
94	Ito K, Yotsuyanagi H, Sugiyama M, Hatahara H, Kurihara Y, Takikawa Y, Saito T, Arase Y, Imazeki F, Kurosaki M, Umemura T, Ichida T	愛知医科大学内科学講座 (肝胆臓内科)	Geographic distribution and characteristics of genotype A hepatitis B virus infection in acute and chronic hepatitis B patients in Japan.	J Gastroenterol Hepatol. 2016 Jan;31(1):180-9.
95	Inoue T, Okumura F, Sano H, Kobayashi Y, Ishii N, Suzuki Y, Fukusada S, Kachi K, Ozeki T, Anbe K, Iwasaki H, Mizushima T	愛知医科大学内科学講座 (肝胆臓内科)	Bleeding risk of endoscopic ultrasound-guided fine-needle aspiration in patients undergoing antithrombotic therapy.	Dig Endosc. 2016 Jun 15. doi: 10.1111/den.12687. [Epub ahead of print]
96	Kobayashi Y, Ito K, Inoue T, Yoneda M	愛知医科大学内科学講座 (肝胆臓内科)	Hemosuccus pancreaticus due to a tumor hemorrhage treated with a self-expandable metallic stent in a patient with unresectable pancreatic carcinoma.	Dig Liver Dis. 2016 May;48(5):567. doi: 10.1016/j.dld.2016.01.001. Epub 2016 Jun 14.
97	Takagi J, Morita H, Ito K, Ohashi T, Hirase S, Ito T, Morishima T, Otake K, Yoneda M	愛知医科大学内科学講座 (内分泌代謝内科、肝胆臓内科)	Urinary β -2 Microglobulin Levels Sensitively Altered in an Osteomalacia Patient Receiving Add-on Adefovir Dipivoxil Therapy for Hepatitis B Virus Infection.	Intern Med. 2016;55(12):1599-603. doi: 10.2169/internalmedicine.55.6301. Epub 2016 Jun 15.
98	高木潤子	内分泌・代謝内科	Glomerular basement membrane (GBM) abnormalities are worth pursuing.	Clin Exp Nephrol 2015;19(3):329-330
99	Yamada H	Department of Ophthalmology, Aichi	Bimatoprost, latanoprost, and tafluprost induce differential expression of matrix metalloproteinases and tissue inhibitor of metalloproteinases.	BMC Ophthalmol. 2016年16号26頁
100	Takeyama M	Department of Ophthalmology, Aichi	Decreased VEGF-A and sustained PEDF expression in a human retinal pigment epithelium cell line cultured under hypothermia.	Biol Res. 2015年48号42頁
101	Sugita K	Department of Ophthalmology, Aichi	Early resolution of subretinal fluid without high-dose corticosteroids in a pregnant patient with Vogt-Koyanagi-Harada disease: a case report.	J Ophthalmic Inflamm Infect2015年5巻20頁
102	Amano T.	循環器内科	Prognostic impact of cardiac troponin T in patients with stable coronary artery disease and diabetes.	J Diabetes Investig. 2016 Jul;7(4):468-9.
103	Kurita A, Takashima H, Ando H, Kumagai S, Waseda K, Goshō M, Amano T.	循環器内科	Effects of eicosapentaenoic acid on peri-procedural (type IVa) myocardial infarction following elective coronary stenting.	J Cardiol. 2015 Aug;66(2):114-9.
104	Sakurai S, Takashima H, Waseda K, Goshō M, Kurita A, Ando H, Maeda K, Suzuki A, Fujimoto M, Amano T.	循環器内科	Influence of plaque characteristics on fractional flow reserve for coronary lesions with intermediate to obstructive stenosis: insights from integrated-backscatter intravascular ultrasound analysis.	Int J Cardiovasc Imaging. 2015 Oct;31(7):1295-301.
105	Takashima H, Waseda K, Goshō M, Kurita A, Ando H, Sakurai S, Maeda K, Kumagai S, Suzuki A, Amano T.	循環器内科	Severity of morphological lesion complexity affects fractional flow reserve in intermediate coronary stenosis.	J Cardiol. 2015 Sep;66(3):239-45.
106	Kanemoto K	Aichi Medical University, Department	Delusional experience awareness gap between patients and treating doctors - Self-reported EPDS questionnaire.	Epilepsy Behav. 51:60-4, 2015
107	Kanemoto K	Department of Neuropsychiatry, School	Validation of the Chinese version of the Neurological Disorders Depression Inventory for Epilepsy (C-NDDI-E) in West China.	Epilepsy Behav. 47:6-10, 2015
108	Kanemoto K	Aichi Medical University Hospital	Dissociative experiences in epilepsy: effects of epilepsy-related factors on pathological dissociation.	Epilepsy Behav. 44:185-91, 2015
109	Yuichiro Izumi	放射線科	Uterine artery embolization by use of porous gelatin particles for symptomatic uterine leiomyomas : comparison with hand-cut	Japanese Journal of Radiology 2015 23-Jun

110	竹内幹伸	愛知医科大学脳神経外科	A Compaction Bone Grafting Technique Leads to Early Bone Fusion in Cases of Posterior Lumbar Interbody Fusion.	OPERATIVE Neurosurgery . 21(1) . 31-38 . 2016
111	竹内幹伸	愛知医科大学脳神経外科	Diagnostic accuracy of multifidus muscle spontaneous activity by needle electromyography for the detection of lumbar foraminal and lateral exit-zone stenosis.	Eur Spine J. 24(10). 2281-2287 . 2015
112	竹内幹伸	愛知医科大学脳神経外科	Lumbar extraforaminal entrapment: performance characteristics of detecting the foraminal spinal angle using oblique coronal MRI. A multicenter study	Spine J. 15(5). 895-900 . 2015
113	竹内幹伸	愛知医科大学脳神経外科	Large volume inside the cage leading incomplete interbody bone fusion and residual back pain after posterior lumbar interbody fusion	Neurosurg Rev . 38(3) . discussion 578 . 2015
114	青山正寛	愛知医科大学脳神経外科	Pitfalls in the Management of Atlanto-Occipital Dislocation.	Asian Spine J . 9(3) . 465 - 470 . 2015
115	青山正寛	愛知医科大学脳神経外科	Expression of mitogen-activated protein kinases in chronic subdural hematoma outer membrane	J Neurotrauma . 32 . 1064 - 1070 . 2015

計 115件

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- (注) 2 報告の対象とするものは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実体上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る)。
- (注) 3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- (注) 4 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(2) 高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	篠邊 龍二郎	愛知医科大学病院 睡眠科	日本人のSASの特徴	血圧22巻5号 Page351-354(2015.05)
2	佐藤 雅子	愛知医科大学病院 睡眠科・睡眠医療センター	高齢者睡眠障害 検査と評価 睡眠ポリグラフ検査	日本臨床73巻6号 Page980-984(2015.06)
3	篠邊 龍二郎	愛知医科大学病院 睡眠科・睡眠医療センター	高齢者の睡眠障害の分類と成因 睡眠呼吸障害	日本臨床73巻6号 Page929-934(2015.06)
4	篠邊 龍二郎	愛知医科大学病院 睡眠科・睡眠医療センター	睡眠関連呼吸障害群(SRBDS)	睡眠医療9巻2号 Page161-174(2015.07)
5	篠邊 龍二郎	愛知医科大学病院 睡眠科・睡眠医療センター	睡眠障害と循環器疾患	ねむりとマネージメント2巻2号 Page68-71(2015.09)
6	篠邊 龍二郎	愛知医科大学病院 睡眠科・睡眠医療センター	睡眠時無呼吸症候群と動脈硬化	動脈硬化予防14巻3号 Page56-61(2015.10)
7	宮澤 英里奈	愛知医科大学病院 睡眠科・睡眠医療センター	不眠症患者における入眠時認知活動尺度(PCAS)の有用性	不眠研究2015巻 Page54-58(2015.09)
8	塩見 利明	愛知医科大学 医学部睡眠科	Key words 肥満と睡眠	カレントセラピー34巻1号 Page81(2016.01)
9	塩見 利明	愛知医科大学 医学部睡眠科	REM睡眠行動障害(RBD)の嗅覚検査	睡眠医療9巻1号 Page71-73(2015.04)
10	若槻 明彦	愛知医科大学産婦人科	女性の動脈硬化性疾患発症予防のための管理指針2013年度版の解説	日本女性医学学会雑誌 2015:22(2):159-163
11	篠原 康一	愛知医科大学産婦人科	女性医学から見た心血管疾患リスクとしての子宮内膜症とその治療方法	日本女性医学学会雑誌 2015:23(1):55-63
12	上野 大樹	愛知医科大学産婦人科	骨盤リンパ節転移陰性子宮頸癌の術後補助治療法に関する後方視的検討	東海産科婦人科学会雑誌 2016:52:227-232
13	吉田 敦美	愛知医科大学 医学部産婦人科学教室	再発中リスク群子宮体癌における再発危険因子の後方視的検討	東海産科婦人科学会雑誌 2016:52:233-239
14	渡辺 員支	愛知医科大学 周産期母子医療センター	妊娠高血圧症候群既往女性における将来の心血管疾患発症リスク	東海産科婦人科学会雑誌 2016:52:1-7
15	柿崎 裕彦	愛知医科大学眼科	Small incision ptosis surgery.	Official Newsletter of Asia Pacific Society of Ophthalmic Plastic and
16	柿崎 裕彦	愛知医科大学眼科	連載英語論文執筆テクニック-虎の巻 各論 第2回	臨床眼科. 69(4). 448-450. 2015
17	柿崎 裕彦	愛知医科大学眼科	目指せ!眼の形成外科エキスパート(第9回)ちょっとポピュラーじゃない眼瞼下垂手術-経結膜法, 切らない方法	臨床眼科. 69(5). 618-623. 2015
18	柿崎 裕彦	愛知医科大学眼科	目指せ!眼の形成外科エキスパート(第10回)眼瞼編 ちょっとポピュラーじゃない眼瞼下垂手術: つり上げ術(前半)	臨床眼科. 69(6). 794-799. 2015
19	柿崎 裕彦	愛知医科大学眼科	目指せ!眼の形成外科エキスパート(第11回)ちょっとポピュラーじゃない眼瞼下垂手術-つり上げ術(後半)	臨床眼科. 69(7). 966-971. 2015
20	柿崎 裕彦	愛知医科大学眼科	目指せ!眼の形成外科エキスパート(第15回)下眼瞼水平方向の「ゆるみ」はこれで治せ!-これができればスペシャリストの仲間入りだ!	臨床眼科. 69(12). 1648-1658. 2015
21	柿崎 裕彦	愛知医科大学病院眼形成・眼窩・涙道外科	目指せ!眼の形成外科エキスパート(第19回)眼形成手術の神髄-眼瞼欠損の修復-欠損部位・範囲に対するブレインストーミングが勝負を決める!	臨床眼科. 70(3). 284-290. 2016

22	柿崎 裕彦	愛知医科大学眼科	Surgical skills これです完璧 涙点閉塞 眼瞼の解剖から見た涙小管閉鎖術	眼科グラフィック. 4(6), 545-550, 2015
23	柿崎 裕彦	愛知医科大学病院眼形成・眼窩・涙道外科	眼瞼下垂 小切開法	チーム柿崎の外来眼形成手術, 2016
24	高橋 靖弘	愛知医科大学病院眼形成・眼窩・涙道外科	下眼瞼内・外反症 Lateral tarsal strip	チーム柿崎の外来眼形成手術, 2016
25	高橋 靖弘	愛知医科大学病院眼形成・眼窩・涙道外科	下眼瞼内・外反症 Transcanthal canthopexy	チーム柿崎の外来眼形成手術, 2016
26	高橋 靖弘	愛知医科大学病院眼形成・眼窩・涙道外科	睫毛内反症 Hotz変法	チーム柿崎の外来眼形成手術, 2016
27	高橋 靖弘	愛知医科大学病院眼形成・眼窩・涙道外科	睫毛内反症 睫毛内反症：埋没法	チーム柿崎の外来眼形成手術, 2016
28	速水 智英	糖尿病内科	Case of ketoacidosis by a sodium-glucose cotransporter 2 inhibitor in a diabetic patient with a low-carbohydrate diet.	J Diabetes Investig
29	武山 直志	愛知医科大学救命救急科	緊急麻酔法	今日の治療指針 私はこう治療している. p.100-101, 2016
30	武山 直志	愛知医科大学救命救急科	電解質異常	ジュネラリストのための外来診療ガイド p.25-26, 2016
31	高橋美裕希	輸血部；血液内科	ランダム皮膚生検により診断したIntravascular Large B-cell Lymphomaの1例	皮膚科の臨床 2016. 2:58(2)267-270
32	岡田洋平	神経内科・脳卒中センター	小児神経疾患克服へ向けた疾患iPS細胞研究の進歩と課題	実験医学増刊号「再生医療2015幹細胞と疾患iPS細胞の最前線」 2015;33(2): 286-91
33	岡田洋平	神経内科・脳卒中センター	【再生医療-新たな医療を求めて-】臨床応用を目指した基礎研究 疾患モデル細胞、iPS細胞を用いた毒性評価と創薬研究 iPS細胞を用いた大脳白質形成不全症の病態解析	日本臨床2015; 73: 396-400 増刊5再生医療
34	安本明弘	神経内科・脳卒中センター	Garcin症候群を呈したムコール症の1例. A case of mucormycosis presenting with Garcin syndrome.	Neuroinfection 2015;20(1):101-105
35	丹羽淳一	神経内科・脳卒中センター	脳脊髄液に好酸球増多を認めた脊髄炎の1症例	臨床神経学 2015;55:651-53
36	横尾和久	形成外科	単純性血管腫のレーザー治療	日本レーザー医学会誌
37	横尾和久	形成外科	乳児血管腫に対する最近のレーザー治療	PEPARS
38	伊藤悠介	形成外科	Treacher Collins症候群に対する、split rib bone graftを骨延長することで頬部軟部組織拡張を行う頬部形成	日本頭蓋顎顔面外科学会誌
39	三嶋 秀行	臨床腫瘍センター	【外科医に求められる積極的緩和医療-延命と症状緩和の狭間で】 緩和医療における化学療法的作用	臨床外科
40	三嶋 秀行	臨床腫瘍センター	【最新臨床大腸病学-基礎研究から臨床応用へ-】 大腸癌の治療 化学療法 高齢者に対する化学療法	日本臨床
41	三嶋 秀行	臨床腫瘍センター	【外科医が知っておくべき がん薬物療法の副作用とその対策】 化学療法の有害事象に関するアセスメント(Grade評価)	臨床外科
42	鈴木 進	腫瘍免疫寄附講座；細胞治療センター	成人T細胞白血病/リンパ腫におけるトリプトファン代謝の予後に関する意義	臨床血液 2015. 11;56(11): 2295-304
43	鈴木 進	腫瘍免疫寄附講座；細胞治療センター	モガムリズムマブの新しい展開	最新医学 2016. 1.; 71巻1号 P126-133
44	池本 竜則	痛みセンター	Telephone Consultation Partially Based on a Cognitive-Behavioral Approach Decreases Pain and Improves Quality of Life in Patients With Chronic Pain.	Anesth Pain Med. 2015 Dec 5;5(6):e32140.
45	新井 健一	痛みセンター	Dorsal root ganglion pulsed radiofrequency for the management of intractable vertebral metastatic pain: a case series.	Pain Med. 2015 May;16(5):1007-12.
46	新井 健一	痛みセンター	Effects of Kamishoyosan, a Traditional Japanese Kampo Medicine, on Pain Conditions in Patients with Intractable Persistent Dentoalveolar Pain Disorder.	Evid Based Complement Alternat Med. 2015;2015:790045.
47	新井 健一	痛みセンター	Integration of a Kampo medicine, Nijutsu, and Western medical treatment in the treatment of long-term frozen shoulder refractory to Western medical treatment: a case series.	J Evid Based Complementary Altern Med. 2015 Apr;20(2):197-61.
48	武藤太一郎	小児科	Group 2 innate lymphoid cell (ILC2).	日本小児アレルギー学会雑誌. 2015;29:734-6.
49	小林佑次	肝胆膵内科	EUS-FNA後に短期間で増大し外科的切除を行った膵 lymphoepithelial cystの1例	膵臓 30:697-703, 2015
50	小林佑次	肝胆膵内科	EUSガイド下ドレナージが有用であった小児膵仮性嚢胞の1例	日本消化器病学会誌 113:71-77, 2016
51	小林佑次	肝胆膵内科	Hemosuccus pancreaticus due to a tumor hemorrhage treated with a self-expandable metallic stent in a patient with unresectable pancreatic carcinoma.	Dig Liver Dis. 2016 May;48(5):567.
52	森田博之	内分泌・代謝内科	完全寛解期の胃悪性リンパ腫と胃癌既往下でGH補充療法を導入したAGHDの1症例	Pharma Medica 20115;33(9):155
53	Mikamo H	感染症科	Efficacy and safety of a single oral 150 mg dose of fluconazole for the treatment of vulvovaginal candidiasis in Japan.	J Infect Chemother. 2015; 21(7): 520-526
54	Miura Y	臨床感染症学／薬剤部	Anti-Androgenic Activity of Icarisid II from Epimedium Herb in Prostate Cancer LNCaP Cells.	J Nutr Sci Vitaminol. 2015; 61(2): 201-204
55	Kawai A	臨床感染症学	In vitro efficacy of liposomal amphotericin B, micafungin and fluconazole against non-albicans Candida species biofilms	J Infect Chemother. 2015; 21(9): 647-653
56	Kato H	感染制御部／薬剤部	Bicytopenia, especially thrombocytopenia in hemodialysis and non-hemodialysis patients treated with linezolid therapy	J Infect Chemother. 2015; 21(10):707-712
57	Tani H	臨床感染症学／中央臨床検査部	Optimization of cluster analysis based on drug resistance profiles of MRSA isolates	Jpn J Antibiot 2015; 68: 325-335
58	Hagihara M	感染制御部／薬剤部	Drug-induced hypersensitivity syndrome by liposomal amphotericin-B: a case report	BMC Res Notes. 2015; 8: 510
59	Yamagishi Y	感染症科	Pharmacokinetic study of garenoxacin in severe renal failure patients	Jpn J Antibiot. 2015; 68(3): 141-150

60	Nagashima M	臨床感染症学	Antifungal susceptibilities of <i>Candida</i> species isolated from the patients with vaginal candidiasis	J Infect Chemother 2016; 22(2): 124-126
61	古井由美子	こころのケアセンター	自殺ハイリスク者のロールシャッハ・テストの体験型による類型化の試み	心理臨床学研究、Vol. 34 No. 2 141-150 2016

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

(注) 2 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。

(注) 3 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
・ 手順書の主な内容 別紙 倫理審査委員会規程	
③ 倫理審査委員会の開催状況	8

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
・ 規定の主な内容 利益相反規程：利益相反の管理に関する規程 利益相反委員会規程：利益相反を審査し、適切な管理・検討するための委員会規程	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年1回

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年2回
・ 研修の主な内容 平成28年1月 6日 B講習 研究倫理審査の申請手続きについて (山口悦郎教授) 平成28年3月23日 A講習 研究倫理審査の現状と課題 (東京医科歯科大学生命倫理研究センター 吉田雅幸センター長) B講習 本学倫理申請手続きの改定点等について (山口悦郎教授)	

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

消化器内科内科学専門医養成コース 循環器専門医養成コース 呼吸器病学・アレルギー学及び臨床腫瘍学専門医養成コース 内分泌・代謝・糖尿病専門医コース 神経内科専門医養成コース 腎臓・膠原病内科関連専門医・学位取得コース 血液学専門医養成コース 総合診療科全人的診療医養成コース リウマチ学・アレルギー学専門医養成コース 睡眠医療認定医取得コース 集中的脳卒中診療研修コース 輸血・細胞治療学認定医養成コース 病理・細胞診専門医コース 感染症専門医/インфекションコントロール・ドクター養成コース 精神科学専門医養成コース 小児科学専門医養成コース 皮膚科専門医取得コース 放射線科専門医取得コース・放射線科治療専門医取得コース 日本外科学会専門医取得コース 消化器外科学専門医養成コース 心臓外科学専門医養成コース 血管外科専門医養成コース 呼吸器外科学専門医養成コース 乳腺専門医養成コース 脳神経外科専門医養成コース 整形外科専門医養成コース 泌尿器科専門医養成コース 産婦人科卒後6年間コース 形成外科学専門医養成コース 眼科専門医取得コース 耳鼻咽喉科専門医養成コース リハビリテーション専門医取得コース 救命救急科専門医コース 麻酔専門医養成コース 日本ペインクリニック専門医取得コース 口腔外科専修医取得コース

2 研修の実績

研修医の人数	153人
--------	------

(注) 前年度の研修医の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
春日井邦夫	内科	教授	31年	消化管内科
米田政志	内科	教授	33年	肝胆膵内科
天野哲也	内科	教授	27年	循環器内科
山口悦郎	内科	教授	37年	呼吸器・アレルギー-内科
大竹千生	内科	教授	37年	内分泌・代謝内科
道勇学	内科	教授	31年	神経内科・脳卒中センター
今井裕一	内科	教授	39年	腎臓・リウマチ膠原病内科
高見昭良	内科	教授	25年	血液内科
中村二郎	内科	教授	35年	糖尿病内科・糖尿病センター
兼本浩祐	精神科・神経科	教授	33年	精神神経科
奥村彰久	小児科	教授	27年	小児科
佐野力	外科	教授	30年	消化器外科
松山克彦	心臓血管外科	教授	25年	心臓外科
石橋宏之	心臓血管外科	教授	34年	血管外科
羽生田正行	呼吸器外科	教授	35年	呼吸器外科
中野正吾	外科	教授	25年	乳腺・内分泌外科
小林孝彰	外科	教授	31年	腎移植外科
高安正和	脳神経外科	教授	38年	脳神経外科・脳卒中センター
出家正隆	整形外科	教授	28年	整形外科
渡邊大輔	皮膚科	教授	23年	皮膚科
住友誠	泌尿器科	教授	25年	泌尿器科
若槻明彦	産婦人科	教授	32年	産科・婦人科・周産期母子医療センター
瓶井資弘	眼科	教授	28年	眼科

植田広海	耳鼻咽喉科	教授	37年	耳鼻咽喉科
石口恒男	放射線科	教授	39年	放射線科
藤原祥裕	麻酔科	教授	29年	麻酔科
前川正人	内科	教授	31年	総合診療科・プライマリケアセンター
横尾和久	形成外科	教授	38年	形成外科
武山直志	救急科	教授	36年	救命救急科・救命救急センター
木村伸也	リハビリテーション科	教授	34年	リハビリテーション科
塩見利明	睡眠科	教授	38年	睡眠科
三嶋廣繁	内科	教授	27年	感染症科・感染制御部
風岡宜暁	歯科口腔外科	教授	32年	歯科口腔外科
後藤峰弘	内科	教授	38年	臨床検査部
加藤栄史	内科	教授	32年	輸血部・細胞治療センター
牛田享宏	麻酔科	教授	25年	痛みセンター
山田恭聖	小児科	教授	22年	周産期母子医療センター
三嶋秀行	外科	教授	32年	臨床腫瘍センター
久保昭仁	内科	教授	29年	臨床腫瘍センター
三原秀嗣	内科	教授	31年	臨床腫瘍センター
畠山登	麻酔科	教授	27年	周術期集中治療部

- (注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。
- (注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。
- (注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）
<ul style="list-style-type: none">・研修の主な内容・研修の期間・実施回数・研修の参加人数
② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）
<ul style="list-style-type: none">・研修の主な内容・研修の期間・実施回数・研修の参加人数
③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況
<ul style="list-style-type: none">・研修の主な内容・研修の期間・実施回数・研修の参加人数

(注) 1 高度の医療に関する研修について記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画	2. 現状
管理責任者氏名	医療情報部長 深津 博	
管理担当者氏名	医事課 村中和秋 病院管理課 近藤朋志 地域医療連携課 竹崎武 医療情報管理課 長江二三子 薬剤部 松浦克彦 医療安全管理室 高安正和 感染管理室 三鴨廣繁 臨床工学部 今井裕	

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	病院日誌	病院管理課
		各科診療日誌	病院管理課
		処方せん	薬剤部
		手術記録	中央加療室
		看護記録	中央加療室
		検査所見記録	中央加療室
		エックス線写真	サーバー
		紹介状	中央加療室
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二條の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	病院管理課
		高度の医療の提供の実績	医事課
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	病院管理課
		高度の医療の研修の実績	病院管理課
		閲覧実績	医療情報管理課
	規則第一條の十一第一項に掲げる事項	紹介患者に対する医療提供の実績	地域医療連携課
		入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課 薬剤部
		医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理室
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理室
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理室
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理室

外来カルテ・入院カルテともに電子カルテとなっている。病歴資料については一患者一番号でカルテと一体になっている。診療録の院外持出しは認めていない。

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一	院内感染対策のための指針の策定状況	感染管理室
	第二条	院内感染対策のための委員会の開催状況	感染管理室
	第三号	従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染管理室
	第四号	感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染管理室
	第五号	医薬品安全管理責任者の配置状況	薬剤部
	第六号	従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
	第七号	医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
	第八号	医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
	第九号	医療機器安全管理責任者の配置状況	臨床工学部
	第十号	従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	臨床工学部
	第十一号	医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	臨床工学部
		医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	臨床工学部

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十三第一項第一号から第十五号までに掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療安全管理室
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染管理室
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医療情報管理課
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	医療情報管理課
		医療安全管理部門の設置状況	医療安全管理室
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	
		監査委員会の設置状況	
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全管理室
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療安全管理室
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	医療安全管理室
		職員研修の実施状況	
管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況			

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	2. 現状	
閲覧責任者氏名	病院事務部長 中條孝弘		
閲覧担当者氏名	病院管理課長 近藤朋志		
閲覧の求めに応じる場所	会議室又は諸記録閲覧室		
閲覧の手続の概要			
申し出があり次第、上長の承認を得てから閲覧する。			

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0件
閲覧者別	医師	延 件
	歯科医師	延 件
	国	延 件
	地方公共団体	延 件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

(様式第 6)

規則第 1 条の 11 第 1 項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	☑・無
<ul style="list-style-type: none">・ 指針の主な内容：<ol style="list-style-type: none">1. 安全管理のための基本的な考え方2. 医療安全管理責任者の設置3. 安全管理の体制確保のための委員会4. 医療安全管理室の設置5. 医療安全管理者の設置6. セーフティマネージャーの設置7. 患者相談窓口の設置8. 医薬品安全管理責任者の設置9. 医療機器安全管理責任者の設置10. 医療事故発生時の対応方法等11. 安全管理のための職員研修12. 患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<ul style="list-style-type: none">・ 設置の有無 (☑・無)・ 開催状況：年 1 2 回・ 活動の主な内容：<ol style="list-style-type: none">1. 医療の安全管理対策の検討及び推進に関する事。2. 入院患者死亡例、特異事例の報告状況の確認に関する事。3. 2 の報告状況が不十分な場合の研修・指導に関する事。4. 医療の安全管理の情報交換に関する事。5. 医療の安全管理のための教育・研修に関する事。6. その他医療安全管理に関する事。	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 1 7 回
<ul style="list-style-type: none">・ 研修の主な内容：<ol style="list-style-type: none">1. 医療安全講演会 (2 回)2. A E D を使用した心肺蘇生法 (8 回)3. エコーを使用した C V カテーテル挿入法 (3 回)4. 臨床研修医ガイダンス「当院の医療安全管理体制」(1 回)5. 新規採用医師ガイダンス (1 回) (指針・マニュアル等の研修)6. 新規採用職員ガイダンス (1 回) (指針・マニュアル等の研修)7. 新規採用看護師ガイダンス (1 回) (指針・マニュアル等の研修)	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none">・ 医療機関内における事故報告等の整備 (☑・無)・ その他の改善のための方策の主な内容：<ul style="list-style-type: none">医療安全管理マニュアルの改訂<ul style="list-style-type: none">・ 特異事例報告にかかる医療安全報告システム・ 医師の指示と指示受け・実施に関わるルール・ 医療問題発生時の医療費取扱いマニュアルの策定・ 薬剤に関する安全対策 <p style="text-align: right;">他 1 9 項目改訂</p>	

(様式第 6)

規則第 1 条の 11 第 2 項第 1 号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	☑・無
<ul style="list-style-type: none">指針の主な内容： 院内感染対策に関する基本的な考え方 院内感染のための委員会。その他の当該病院などの組織に関する基本方針 院内感染対策のための従業者に対する研修に関する基本方針 感染の発生状況の報告に関する基本方針 院内感染発生時の対応に関する基本方針 患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針 その他の当該病院等における院内感染対策推進のために必要な基本方針	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 1 3 回
<ul style="list-style-type: none">活動の主な内容： 毎月 1 回第 2 回曜日に定例開催し、次に掲げる事項の審議を実施 感染予防対策の確立に関すること。 感染予防の実施、監視及び指導に関すること。 感染予防の教育に関すること。 感染に関する事故等が発生した場合における原因究明に関すること。 その他感染予防に関すること。	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 2 7 回
<ul style="list-style-type: none">研修の主な内容： キャリア・ディベロップメント講座（年 7 回） 院外講師による感染予防に関する講演会（年 2 回） 愛知県実践感染症カンファランス（年 6 回） 新規採用者研修（年 1 0 回） 清掃委託業者への研修（年 1 回） 看護補助員委託業者への研修（年 1 回）	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<ul style="list-style-type: none">病院における発生状況の報告等の整備（☑・無）その他の改善のための方策の主な内容： ICTによるラウンドの実施 リンクナースによる感染対策推進活動の実施 SSIサーベイランスの実施 ICUサーベイランスの実施 BSIサーベイランスの実施 全病院サーベイランスの実施 耐性菌サーベイランスの実施	

(様式第 6)

規則第 1 条の 11 第 2 項第 2 号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	☑・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 3 3 回
<ul style="list-style-type: none">・ 研修の主な内容：<ul style="list-style-type: none">・ 麻薬、向精神薬の取り扱いについて・ 静脈注射を安全に実施するための薬の基礎知識・ 緊急カートの薬剤について・ 麻薬管理表の使用方法及び返品・受取について（内服薬・外用薬）・ 病棟別勉強会	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<ul style="list-style-type: none">・ 手順書の作成 (☑・無)・ 業務の主な内容：<ul style="list-style-type: none">・ 手順書に基づいて部署毎にチェックリストを作成し、担当薬剤師と各部署の職員で業務手順書の遵守状況を A～C の三段階で評価している。・ 評価 C の項目については改善を指示し改善状況を確認している。・ 平成 27 年度は実施できなかった。	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none">・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (☑・無)・ その他の改善のための方策の主な内容：<ul style="list-style-type: none">・ 未承認薬・適応外薬の使用については倫理委員会へ申請することになっており、申請された治療について倫理委員会から薬剤部長あてに治療について意見を求める体制とした。・ 薬剤部長は薬剤部で予備審査を行った後、予備審査結果について抗がん剤についてはがん薬物療法委員会へ、抗がん剤以外については薬事委員会において審議を行い、治療実施の是非、安全使用等について薬事委員会へ提言している。・ これまでに（平成 28 年 5 月～8 月）12 件の審査を実施している。	

(様式第 6)

規則第 1 条の 11 第 2 項第 3 号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年38回
・ 研修の主な内容： 新規に導入された装置の取り扱い説明などをメーカーに依頼している。 既に導入された装置は、メーカーや臨床工学技士が使用法や安全講習を行っている。 専任の技士等には、メーカーや関係学会等で行われる安全講習などを受講させている。	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
・ 医療機器に係る計画の策定 (<input checked="" type="checkbox"/> ・無) ・ 保守点検の主な内容： 機器の添付文書に沿った点検を行っている。 定期点検は、メーカーに依頼して行っている。 始業点検・終業点検は、装置に合わせて行っている。 点検には、専用の点検簿を使用し記録を残している。	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (<input checked="" type="checkbox"/> ・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： 情報収集には、PMDAやメーカー・業者や学会などのホームページやメールを利用している。 未承認機器の使用は、治験管理センター。	

(様式第 6)

規則第 9 条の 23 第 1 項第 1 号から第 15 号に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
<p>・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <ul style="list-style-type: none">・ 医療安全管理責任者として、医療安全担当の副院長をもって充てた。・ 医療安全管理指針を改定し、医療安全管理責任者の設置・業務・医療安全担当副院長が担うことを定めた。(医療安全管理マニュアル 001 医療安全管理指針 第二項 平成28年10月1日施行)・ 医療安全管理責任者は、医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者を統括する。	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	<input checked="" type="checkbox"/> (20名)・無
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <ul style="list-style-type: none">・ 医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況 別紙参照・ 未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況 未承認薬等の使用状況の把握及びチェック体制について手順書の作成及び体制の構築を行っている。現在、システムを構築中であり、システム構築までの間は以下のとおりチェックを行っていることとしている。 医事返戻データより適応外使用薬を把握することとし、外来調剤、病棟の担当者へ情報提供することによって適応外使用の根拠、エビデンスの確認及び是非の判断を行う体制を構築した。電子カルテの患者病名 (ICD10) と薬品の適応疾患をチェックする仕組みを構築するよう取り組んでいる。システムが構築できれば、調剤時及び処方時 (病棟担当者) に確認を行う体制とする。禁忌については現状では併用禁忌、過量投与がチェックできるようになっており、調剤時及び処方時 (病棟担当者) に確認している。禁忌についても現在、病名、検査値異常、年齢、性別に関連する禁忌をチェックするシステムを構築中であり、システム構築後は、調剤時及び処方時 (病棟担当者) に確認を行う体制とする。・ 担当者の指名の有無 (<input checked="" type="checkbox"/>・無)	
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
<ul style="list-style-type: none">・ 医療の担い手が説明を行う際と同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 (<input checked="" type="checkbox"/>・無) 「インフォームド・コンセントの適切な実施に関する規程」平成 28 年 10 月 1 日施行・ 規程の主な内容 :	

<ul style="list-style-type: none"> ・ インフォームド・コンセントの手順・インフォームド・コンセントの説明内容 ・ インフォームド・コンセントの説明方法・インフォームド・コンセントの説明手順 ・ 説明書及び同意書の必要項目, 署名, 保存方法 等 	
⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 活動の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ・ 診療録管理規程を一部改正し, 診療録管理責任者を設置(平成 28 年 10 月 1 日施行) ・ 診療録の記載内容等の確認 ・ 診療録記載不適切事例の指導及び院内周知 等 	
⑥ 医療安全管理部門の設置状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 所属職員：専従（7）名、専任（3）名、兼任（5）名 <ul style="list-style-type: none"> うち医師：専従（ ）名、専任（1）名、兼任（5）名 うち薬剤師：専従（ ）名、専任（1）名、兼任（ ）名 うち看護師：専従（3）名、専任（ ）名、兼任（ ）名 ・ 活動の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療の安全を確保するための改善方策に関すること。 2. 医療安全管理のための職員の教育・啓発に関すること。 3. 医療事故発生時の対応に関すること。 4. 医療安全管理委員会の円滑な運営に関すること。 5. 医療安全管理に関する院内の連絡調整 6. その他医療安全管理に関する業務 <p>※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 専従の看護師を医療安全管理者として設置しており、医療安全管理委員会の事務、医療事故発生時の対応、原因究明、医療安全の連絡調整、職員研修の企画・実施などの業務に従事している。 	
⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（ 有・無 ） ・ 高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（ 有・無 ） ・ 規程の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（ 有・無 ） ・ 高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（ 有・無 ） 	

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（有・無）
- ・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有・無）
- ・規程の主な内容：
- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有・無）
- ・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（有・無）

⑨ 監査委員会の設置状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"> ・監査委員会の開催状況：年 回 ・活動の主な内容： ・監査委員会の業務実施結果の公表の有無（有・無） ・委員名簿の公表の有無（有・無） ・委員の選定理由の公表の有無（有・無） ・公表の方法： 	

監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
				有・無	
				有・無	
				有・無	
				有・無	
				有・無	
				有・無	

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。
1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
 2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
 3. その他

<p>⑩ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年679件（平成27年度） ・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年67件（平成27年7月～平成28年3月） ・医療安全管理委員会の活動の主な内容 <ul style="list-style-type: none"> ① 医療の安全管理対策の検討及び推進に関すること。 ② 入院患者の死亡例、特異事例の報告状況の確認及び確認結果の病院長への報告に関すること。 ③ ②の報告状況が不十分な場合の研修・指導に関すること。 ④ 医療の安全管理の情報交換に関すること。 ⑤ 医療の安全管理のための教育・研修に関すること。 ⑥ その他医療の安全管理に関すること。
<p>⑪ 他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・他の特定機能病院への立入り（有（病院名： ））・無） ・他の特定機能病院からの立入り受入れ（有（病院名： ））・無） ・技術的助言の実施状況
<p>⑫ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・体制の確保状況 <ul style="list-style-type: none"> ① 平成15年4月1日から、患者相談窓口を病院中央棟1階に設置している。 ② 担当者は、看護師（副部長または師長）としている。 ③ 責任者は、医療安全担当の副院長としている。 ④ 対応時間は、平日8時30分から、17時15分としている。 ⑤ 患者・ご家族等からの苦情・相談のうち、苦情については病院長に報告することとしている。 ⑥ 担当者及び関係者の守秘義務についても医療安全管理マニュアルに明記している。 （医療安全管理マニュアル 015 医療安全に係る患者相談窓口設置要綱 に明記） ⑦ 院内掲示により患者・家族に案内している。
<p>⑬ 医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無（<input checked="" type="checkbox"/>有・無） ・窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関しする必要な定めの有無（<input checked="" type="checkbox"/>有・無） ・窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無（<input checked="" type="checkbox"/>有・無）

⑭ 職員研修の実施状況

・ 研修の実施状況

⑮ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・ 研修の実施状況

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
・評価を行った機関名、評価を受けた時期 機関名：公益財団法人日本医療機能評価機構 時 期：平成17年10月17日認定 平成22年12月3日認定 平成27年10月17日認定	

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
・情報発信の方法、内容等の概要 方法：リーフレットの配布・掲示 ホームページ 病院広報誌など 内容：当院の医療連携上の役割 前方・後方連携への協力要請など	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 ・ 外来において、循環器内科と心臓外科・血管外科、消化管内科・肝胆膵内科と消化器外科などの関連する診療科を同じブロックに配置し、共同診療に配慮している。 ・ 診療科間で依頼箋により情報交換し、専門分野の診療を共同して行っている。入院診療においては、共同カンファレンスを行って診療を行っている。 ・ 疾患の必要に応じて、複数の診療科による共同の手術を行っている。 ・ 救命救急センターにおいて、救命救急科と専門診療科が毎朝カンファレンスを行い、連携して診療に当たっている。	

愛知医科大学病院倫理委員会規程（標準業務手順書）

（趣旨）

第1条 この規程は、愛知医科大学病院倫理審査実施規程第4条第2項の規定に基づき、人を対象とする医学系研究に関する倫理指針（平成26年文部科学省・厚生労働省告示第3号）、ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針（平成25年文部科学省・厚生労働省・経済産業省告示第1号）、遺伝子治療等臨床研究に関する指針（平成27年厚生労働省告示第344号）等に準拠して、愛知医科大学病院（以下「病院」という。）における倫理委員会（以下「委員会」という。）の構成、審査方針・方法、運営方法、記録の保存等について定める。

（構成等）

第2条 委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。

- 一 基礎医学部門及び臨床医学部門の教授各2名
 - 二 人文・社会科学を専門とする医学部の教員1名
 - 三 医学部以外の学識経験者又は一般の立場の者2名以上
 - 四 法律に関する専門家1名以上
 - 五 分子生物学、細胞生物学、遺伝学、臨床薬理学、病理学等を専門とする医学部の教員3名以上
 - 六 提出された遺伝子治療等臨床研究実施計画の対象となる疾患に係る臨床医1名以上
 - 七 その他病院長が必要と認める教職員若干名
- 2 前項第3号の委員のうち1名は、一般の立場の者とする。
- 3 第1項の委員には、男性及び女性の双方が加わらなければならない。
- 4 第1項第1号及び第2号の委員の任期は2年、第3号、第4号、第5号及び第7号の委員の任期は2年以内とし、再任を妨げない。ただし、欠員により補充した委員の任期は、前任者の残任期間とする。
- 5 第1項第5号の委員は、遺伝子治療等臨床研究に関する指針に該当する事項の審議及び採決にのみ加わるものとする。
- 6 第1項第6号の委員は、審査する実施計画ごとに選出するものとし、任期は、当該実施計画の審査終了の日までとする。

（委員長、副委員長）

第3条 委員会に委員長を置く。

- 2 委員長は、委員の互選により決定する。
- 3 委員会に副委員長2名を置き、委員長が指名する。
- 4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときは、その職務を代理する。
- 5 委員長及び副委員長の任期は1年とする。ただし、再任を妨げない。

(審査方針)

第4条 委員会は、人を対象とする医学系研究等及び特定の医療行為（以下「研究等」という。）について、次に掲げる事項を確認して審議を行わなければならない。

- 一 被験者の人権擁護、安全の確保及び福祉への配慮がなされていること。
- 二 倫理的、科学的及び医学的に妥当であること。
- 三 被験者（又は試料提供者）に十分な説明とその自由意思による同意が適切に行われていること。また、社会的に弱い立場にある者を被験者とする可能性のある研究等においては、細心の注意が払われていること。
- 四 人間の尊厳を尊重し、関連指針を遵守し、研究計画に従って適正に研究等が実施されること。
- 五 その他委員会が必要と認める事項

(審査資料の入手)

第5条 委員会は、審査資料として倫理審査申請書その他委員会が必要とする資料を病院長から入手しなければならない。

(委員会の運営)

第6条 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

- 2 委員会は、原則として、月1回開催する。ただし、病院長から臨時に審査依頼があった場合は、随時委員会を開催することができる。
- 3 委員会は、委員の3分の2以上が出席し、かつ、第2条第1項第2号の委員、同項第4号の委員及び同条第2項に規定するもののうち1名以上の出席がなければ、会議を開催することができない。
- 4 委員会は、委員以外の議事に関連する者の出席を求め、その意見を聞くことができる。
- 5 委員長は、申請された研究等の研究計画について、第8条に規定する専門委員会の意見を求めることができる。
- 6 当該研究等の研究責任者、分担研究者又は研究協力者となっている委員は、その関与する研究等について情報を提供することはできるが、当該研究等に関する事項の審議及び採決に加わることはできない。
- 7 委員会の委員は、職務上知り得た情報を正当な理由なく漏らしてはならない。委員を退いた後も同様とする。
- 8 審査の判定は、出席委員全員の合意を原則とする。ただし、意見の一致に至らない場合には、出席委員の3分の2以上の合意により判定できるものとする。
- 9 前項の判定は、次の各号のいずれかによる。
 - 一 承認
 - 二 修正した上で承認
 - 三 条件付承認
 - 四 不承認
 - 五 保留
 - 六 停止
 - 七 中止
- 10 委員会は、審議終了後速やかに、審査結果を病院長に倫理審査結果通知書により通知

するものとする。

11 病院長は、委員会の審査結果について異議がある場合には、理由書を添えて委員会に再審査を請求することができる。

12 委員会の決定に対する研究責任者からの異議申し立ては、病院長を通じて行うものとする。

(迅速審査)

第7条 委員会は、遺伝子治療等臨床研究に関する指針又は病院が主たる研究機関となる多施設共同研究の審査を除き、次に掲げる事項の審査について、委員長が指名する委員2名による迅速審査に付することができる。なお、委員長は、必要に応じて審査内容に関連する者の意見を求めることができる。

一 他の研究機関と共同して実施される研究等であって、既に当該研究等の全体について共同研究機関において倫理審査委員会の承認を受け、その実施について適当である旨の意見を得ている場合の審査

二 研究計画書の軽微な変更に関する審査

三 侵襲を伴わない研究等であって介入を行わないものに関する審査

四 軽微な侵襲を伴う研究等であって介入を行わないものに関する審査

五 治療目的で未承認又は適応外で使用する医薬品・医療材料・医療機器の使用又は新医療技術・検査に関する審査

2 迅速審査の対象か否かの判断は、委員長及び副委員長1名が行う。

3 第1項の委員のうち、1名を主査、1名を副査とする。

4 主査は、迅速審査の結果を委員長に報告する。

5 前項の迅速審査の結果が、主査及び副査の合意による承認の場合は、委員長は速やかに審査結果を病院長に通知し、次回の委員会において迅速審査の内容及び判定結果を報告するものとする。

6 第4項の迅速審査の結果が、主査及び副査の合意による承認以外の場合は、委員長は当該研究計画について次回の委員会において審査するものとする。

(専門委員会)

第8条 委員会に、次の専門委員会を置く。

一 病院第一専門委員会

二 病院第二専門委員会

三 病院ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する専門委員会

四 病院遺伝子治療臨床研究に関する専門委員会

2 専門委員会は、委員長の諮問に応じて専門的事項を調査・検討し、その結果を委員長へ報告する。

3 専門委員は、当該専門事項にかかわる学識経験者のうちから、委員長が委嘱する。

4 専門委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、欠員により補充した委員の任期は、前任者の残任期間とする。

5 専門委員会に専門委員会委員長を置き、委員長が指名する。

6 専門委員会委員長は、専門委員会を招集し、その議長となる。

7 専門委員会は、委員の過半数の出席がなければ、会議を開催することができない。

(事務担当者の業務)

第9条 委員会の事務担当者は、委員長の指示により、次に掲げる業務を行う。

- 一 委員会の開催準備
- 二 委員会の議事録の作成
- 三 倫理審査結果通知書の作成及び病院長への提出
- 四 委員会で審議の対象としたすべての資料、議事録、会議の議事要旨、倫理審査結果通知書、その他委員会が作成した資料等の保存
- 五 その他委員会に関する業務の円滑化を図るために必要な事務及び支援
(記録の保存)

第10条 委員会において保存すべき文書（以下「保存文書」という。）は、次に掲げるものとする。

- 一 この標準業務手順書
 - 二 委員名簿（職名及び資格を含む。）
 - 三 前条第4号に規定する資料等
 - 四 書簡等の記録
 - 五 その他委員長が必要と認めたもの
- 2 保存文書の保存責任者は、病院管理課長とする。

(記録の保存期間)

第11条 病院管理課長は、保存文書を、当該研究等の終了した日の属する年度の翌年度の4月1日から5年間保存する。ただし、その間に当該研究が公表された場合には、公表した年度の翌年度の4月1日から起算する。

(細則)

第12条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営等に関し必要な事項は、委員会の議を経て委員長が定める。

附 則

- 1 この規程は、平成27年8月1日から施行する。
- 2 この規程の施行の際平成27年8月1日廃止前の倫理委員会の専門委員会に関する細則第3条の規定により専門的事項を調査・検討中の研究等のうち病院におけるものは、この規程により調査・検討したものとみなす。
- 3 第8条第1項に規定する専門委員会委員のうち最初の委員の任期は、第8条第4項本文の規定にかかわらず、平成29年3月31日までとする。
- 4 第2条第4項に規定する委員のうち最初の委員の任期は、同項本文の規定にかかわらず、平成29年3月31日までとする。

附 則

この規程は、平成27年10月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成27年12月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成28年3月1日から施行する。

別紙

DSU

年	日付	No
2016年	9月12日	No.252
	8月1日	No.251
	6月17日	No.250
	5月30日	No.249
		No.248
	3月7日	No.247
	2月22日	No.246
2015年	12月24日	No.245
		No.244
	10月5日	No.243
	9月24日	No.242
	8月13日	No.241
7月6日	No.240	

医薬品・医療機器等安全性情報

年	日付	No
2016年	9月16日	No.336
	9月16日	No.335
	9月16日	No.334
	6月3日	No.333
	5月6日	No.332
2015年	8月13日	No.324
	8月13日	No.325

自主回収情報

年	日付	内容
2016年	9月16日	ザクラスHD、LD
	8月19日	注射用サイメリン50mg
	8月18日	プロタノールL注0.2mg
	7月19日	タミフルDS
	5月23日	マグミット細粒83%0.6g
	5月9日	ニプロランセット
	4月14日	ワンタソテール点滴静注20mg/1mL
	2015年	10月27日
7月27日		イーケプラ製剤

(様式第 8)

愛 医 病 管 第 189 号
平成 28 年 9 月 1 日

厚生労働大臣 塩 崎 恭 久 殿

開設者名

学校法人愛知医科大学

理事長 三 宅 養 三 (印)

医療に係る安全管理のための体制整備に関する計画について

標記について、次のとおり提出します。

記

1. 医療安全管理責任者を配置するための予定措置

- ・ 医療における安全管理指針を改正して、医療安全管理責任者の設置、業務、選任方法を定めることとしている。(平成 28 年 10 月 1 日施行予定)
- ・ 医療安全管理責任者について、現任の医療安全担当の副院長に平成 28 年 10 月 1 日付けをもって任命することとしている。

2. 医薬品安全管理責任者の活動を充実するための予定措置

- ・ 医薬品安全管理責任者は、平成 28 年 8 月に医薬品の使用状況を調査する担当者として医薬品情報管理室担当の薬剤師 2 名を指名し、医薬品の使用状況の調査等の業務命令を出した。
- ・ 医薬品安全管理責任者は、医薬品の使用状況の調査についての仕組みの構築、確認方法の手順を作成することとしている。
- ・ 医薬品安全管理責任者は、平成 28 年 8 月に未承認薬の使用について、薬剤師 9 名 (DI 室 2 名、入院 5 名、外来 1 名、製剤 1 名) を指名し、医師に対する確認、処方変更提案、その結果報告等の業務命令を出した。
- ・ 医薬品安全管理責任者は、未承認薬の使用状況の把握方法、使用の必要性の検討、指導、その結果の情報共有を行うことを平成 28 年 9 月 30 日までに実施予定である。

3. 医療を受ける者に対する説明に関する責任者を配置するための予定措置

- ・ インフォームド・コンセントの適切な実施に関する規程を制定して、インフォームド・コンセント責任者の設置、業務、選任方法等を定めることとしている。(平成 28 年 10 月 1 日施行予定)
- ・ インフォームド・コンセント責任者について、現任の医療情報部長に、平成 28 年 10 月 1 日付けをもって任命することとしている。

4. 説明の実施に必要な方法に関する規程を作成するための予定措置

- ・ インフォームド・コンセントの適切な実施に関する規程を制定して、インフォームド・コンセントの同席者、標準的な説明内容、規程の遵守状況の確認、不適切事例の指導・通知・研修の実施等について定めることとしている。(平成 28 年 10 月 1 日施行予定)

5. 診療録等の管理に関する責任者を配置するための予定措置

- ・ 愛知医科大学病院診療録管理規程を改正して、診療録管理責任者の設置、業務、選任方法等を定めることとしている。(平成 28 年 10 月 1 日施行予定)
- ・ 診療録管理責任者について、現任の医療情報部長に平成 28 年 10 月 1 日付けをもって任命することとしている。

6. 規則第 9 条の 23 第 1 項第 10 号に規定する医療に係る安全管理に資する措置を実施するための予定措置

- ・ 現に、全死亡例・特異事例を医療安全管理室に報告するシステムが稼働している。
- ・ 全死亡例・特異事例の報告の実施状況について、医療安全管理室から医療安全管理委員会・病院長へ報告する手順を作成した。
- ・ 医療安全管理委員会規程を改正して、委員会の業務として、全死亡例等の報告状況の確認、その結果の病院長への報告、報告が不十分な場合の研修指導等を追加することとした。(平成 28 年 10 月 1 日施行予定)

7. 医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口を設置するための予定措置

- ・ 現に、学校法人の監査室に公益通報窓口が設置されており、学校法人愛知医科大学公益通報者の保護等に関する規程を改正して、その業務に医療安全管理に関する情報提供への対応を追加することとしている。(平成 28 年 10 月 1 日施行予定)
- ・ 公益通報窓口において医療安全の情報提供を受け付けること、適切に対応することを職員に通知し、ホームページに掲載することとしている。

8. 医療安全管理部門による医療に係る安全の確保に資する診療の状況の把握及び従業者の医療の安全に関する意識の向上の状況の確認実施のための予定措置

- ・ 術後の血栓予防策の実施率などの診療内容のモニタリングについて平成 29 年 3 月 31 日までに実施予定である。
- ・ 職員の医療安全の意識向上の状況調査のため、まずは院内全部署のセーフティマネージャーに対して、医療安全文化に対する意識調査を実施中である。

9. 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門を設置するための予定措置

- ・ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門は、平成 29 年 3 月 31 日までに医療安全管理室が兼ねることとする予定である。
- ・ この部門の責任者は、医療安全管理室の専任医師（医療安全管理室副室長）とし、また手術部門（麻酔科）の医師（医療安全管理室副室長）を構成員として部門に配置することを平成 29 年 3 月 31 日までに予定している。
- ・ 医療安全管理室の業務規定を改正して、高難度新規医療技術の提供の適否等の決定、高難度新規医療技術の提供状況の確認、診療記録の記載内容の確認等の業務を追加することを平成 29 年 3 月 31 日までに予定している。

10. 高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程を作成するための予定措置

- ・ 厚生労働大臣が定める基準に従い、職員の遵守事項、申請手続き、申請書類の書式、決定の手続き、症例実績の定期的な報告の手順、死亡の場合等に決定部門が確認すべき事項、病院長への報告手順について平成 29 年 3 月 31 日までに規程を定めることとしている。
- ・ 高難度新規医療技術評価委員会は、平成 29 年 3 月 31 日までに既設の病院倫理委員会

をもって充てることとし、その専門委員会を設けて、当該高度技術に関連する診療科の医師、他の診療科の医師、医療安全管理部門の医師を加えて審議することとしている。

11. 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門を設置するための予定措置

- ・ 未承認新規医薬品等を用いた医療の実施の適否を決定する部門を薬剤部とし、平成 29 年 3 月 31 日までに施行予定。
- ・ 担当部門の責任者は、薬剤部長とすることとしている。
- ・ 薬剤部に、兼任の医師を配置することとしている。
- ・ 薬剤部規程を改正して、決定部門としての業務を追加することとしている。

12. 未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程を作成するための予定措置

- ・ 厚生労働大臣が定める基準に従い、職員の遵守事項、申請手続き、申請書類の書式、決定の手続き、症例実績の定期的な報告の手順、死亡の場合等に決定部門が確認すべき事項、病院長への報告手順を平成 29 年 3 月 31 日までに定めることとしている。
- ・ 未承認新規医薬品等評価委員会は、既設の病院倫理委員会をもって充てることとし、倫理委員会規程の審議事項の改正を行うこととしている。また、専門委員会を設け、当医療に関連する診療科の医師、他の診療科の医師、医療安全管理室の薬剤師を加えて審議することとしている。

13. 監査委員会を設置するための予定措置

- ・ 外部監査委員会規程を平成 29 年 3 月 31 日までに制定して、設置目的、審議事項、委員構成、任期、任命、委嘱、会議方法、事務局などについて定めることとしている。
- ・ 委員については、利害関係のない者を選定中である。
- ・ 委員への旅費、謝金の予算措置を行うこととしている。

14. 他の特定機能病院の管理者との連携による立入り及び技術的助言を遂行するための予定措置

- ・ 日本私立医科大学病院協会による医療安全相互ラウンドに参加しており、今後とも継続していくこととしている。

15. 職員研修を実施するための予定措置

- ・ 今後実施する全職員研修の中で、医療安全管理、監査委員会からの指摘事項、チーム医療を提供するための知識及び技能であって高度な医療を提供するために必要な事項、インシデント・アクシデント等の報告の流れ、医療安全に係る具体的事例の改善策、高難度新規医療技術の導入プロセス、インフォームド・コンセントの改善、診療録記載の改善に関する事項を研修のテーマに取り上げていくこととしている。
- ・ 平成 29 年 3 月 31 日までに研修後に e-learning などにより学習効果の測定を行っていくこととしている。
- ・ 平成 29 年 3 月 31 日までに全職員に対する安全文化の意識調査を実施することとしている。

16. 管理職員研修（医療に係る安全管理のための研修、管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者向け）を実施するための予定措置

- ・ 平成 30 年 3 月 31 日までに、病院長自ら定期的に医療安全に係る研修を受講していくこととしている。
- ・ 平成 30 年 3 月 31 日までに、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者は、定期的に医療安全に係る研修を受講していくこととしている

17. 医療安全管理部門の人員体制

- ・ 所属職員：専従（3）名、専任（2）名、兼任（5）名
うち医師：専従（ ）名、専任（1）名、兼任（5）名
うち薬剤師：専従（ ）名、専任（1）名、兼任（ ）名
うち看護師：専従（3）名、専任（ ）名、兼任（ ）名

18. 医療安全管理部門の専従職員を配置するための予定措置

- ・ 現在の専従（医療安全管理部門の業務に 8 割以上従事）は看護師 3 名であり、平成 30 年 3 月 31 日までに医師については 1 名の専従化（医療安全管理部門の業務に 8 割以上従

事)又は2名の専任化(医療安全管理部門の業務に5割以上従事)を行い、2名の専任化(医療安全管理部門の業務に5割以上従事)を行う場合は、平成32年3月31日までに1名の専従者(医療安全管理部門の業務に8割以上従事)を配置する予定である。薬剤師については10名を専従化(医療安全管理部門の業務に8割以上従事)するよう予算措置を行い、配置することとしている。平成30年3月31日までに1名の専従化(医療安全管理部門の業務に8割以上従事)又は2名の専任化(医療安全管理部門の業務に5割以上従事)を行い、2名の専任化(医療安全管理部門の業務に5割以上従事)を行う場合は、平成32年3月31日までに1名の専従者(医療安全管理部門の業務に8割以上従事)を配置する予定である